

# 検察官幹部人事の研究 — 検事総長、次長検事、検事長、および法務事務次官に注目して —

西川 伸 一\*

## Research on Personnel Management of Senior Prosecutors in Japan

NISHIKAWA Shin-ichi

### はじめに

法社会学者の潮見俊隆は「検察官のもつ権限は、国民にたいする強制力の行使であり、もっとも直接的な権力作用である」とかつて書いた（潮見 1966: 109）。1985年12月から1988年3月まで検事総長を務めた伊藤榮樹は、検察権について「国家権力のもっともむきだしな行使の一つ」と説明している（伊藤 1986: 152）。であれば、権力作用や国家権力を研究領域に含める政治学は、検察官あるいは検察権を当然その分析対象とすべきはずだ。しかし、近年刊行された政治学のテキストをあれこれ開いても検察官・検察権への言及はまずない。<sup>1)</sup> 官僚制研究に分野を絞ってもそうした関心はごく少数にとどまる。<sup>2)</sup>

そこで本稿は、検察官について、とりわけその幹部人事に焦点を当てることでこの「無関心」の解消を目指した取り組みとしたい。<sup>3)</sup> 具体的には、次の11の幹部ポストの歴代就任者のキャリアパスを精査して、検察官幹部人事の特徴を明らかにしていく。

①検事総長、②次長検事、③東京高等検察庁（以下、高検）検事長、④大阪高検検事長、⑤名古屋高検検事長、⑥広島高検検事長、⑦福岡高検検事長、⑧仙台高検検事長、⑨札幌高検検事長、⑩高松高検検事長、⑪法務事務次官

①から⑩までは認証官<sup>4)</sup>である。言うまでもなく、検事総長は最高検察庁（以下、最高検）の長、次長検事は検事総長の補佐役であり、全国に8か所ある高検の長は検事長と称される。<sup>5)</sup> 法務事務次官は法務省における事務方のトップである。<sup>6)</sup> 対象とする時期は検事総長については1947年5月3日の検察庁法施行以降現在まで、それ以外のポストは戦後の司法修習を経て任官した者から現在までとする。

\*政治経済学部専任教授

## 1 歴代検事総長

歴代検事総長 32 人のリストは後掲の**基礎資料 1**のとおりである。全員が男性である。生年をみると後任者より前任者が年下という事例は 1 件もない。司法試験（正確には司法試験第二次試験。以下同じ）の合格年でも年次の逆転はみられない。もちろん司法試験に合格する年齢は各自で様々である。それでも歴代就任者がきれいに生年順・司法試験合格年順に並んでいる。戦後の司法修習を終了した任官者<sup>7)</sup>のうち最初に検事総長に達した伊藤榮樹から現職の甲斐行夫までの 19 人の中で、18 人（94.3%）は大学在学中に司法試験に合格している<sup>8)</sup>（以下、「現役合格」という）。該当者は**基礎資料 1**の「氏名」列で太字で示した（以下、各**基礎資料**の「氏名」列での太字は同じ意味である）。例外は笠間治雄<sup>9)</sup>だけである。すなわち、合格率数%だった旧司法試験にもかかわらず、彼ら 18 人はいわゆる司法浪人をせずにこの難関を突破して、2 年の司法修習<sup>10)</sup>を経て検事に任官した。26 歳前後が新任検事の着任年齢と指摘されている（野村 1991: 27）。彼らはそれより 2 歳程度若くして検察官の道を歩みはじめたことになる。

そうした彼らには、任官順に将来の最高幹部へと育て上げる人事システムが用意されていることを、**基礎資料 1**に掲げたデータは物語る。つまり、検事総長に行き着く第一の条件は司法試験に「現役合格」することなのである。任官後は「総長コース」<sup>11)</sup>と俗称されるポストを歴任していく。その認証官直前ポストが法務事務次官（**基礎資料 1**の「前職」列で太字にした）である。歴代検事総長のうち 19 人（59.4%）がこのポストを経由している。

ただ、法務事務次官に限らず事務次官は、法案の取扱いなどをめぐって政権・与党幹部に気を遣い信頼を得る必要がある。その関係が裏目に出たのが、法務事務次官を経験した黒川弘務東京高検検事長を安倍晋三政権が強引に検事総長に引き上げようと画策した事例だろう。これに懲りたのか、現職そして前任の検事総長には法務事務次官経験のない者が起用されている。後述のように、次の検事総長にも法務事務次官未経験が就く可能性が高い。

また、歴代 32 人のうち東大出身者が 25 人（78.1%）を占めている。京大出身者を合わせれば 90%を上回る（表 1）。この偏りは、ほとんどの検事総長就任者が「現役合格」していることとおそらく関連している。

一方で、東大・京大出身者以外で検事総長に就いたのは、岡山大出身の吉永祐介が最初である。吉永は「特捜のエース」とよばれ、東京地方検察庁（以下、地検）特捜部副部長在任中にロッキード事件で田中角栄前首相を逮捕した。東京地検検事正時代にはリクルート事件を手がけた。次のポストは広島高検検事長であり、後職として大阪高検検事長に転じた。「3 (2)」で記すとおり、大阪高検検事長は通常「上がり」ポストである。歴代就任者のほとんどはここで 63 歳の定年退官を迎えるか、その前に依願退官している（**基礎資料 4**）。しかも、吉永は後述する「現場組」であり、そもそも「総長コース」には乗っていなかった。

その吉永が 1993 年 7 月に次の検事総長含みで東京高検検事長へ異例の異動をした。背景には、当

表1：歴代検事総長の出身大学

	東大	京大	国公立大	私大	合計
人数	25	4	2	1	32
%	78.1	12.5	6.3	3.2	100*

作成参照：基礎資料1。

\*小数点第2位を四捨五入しているので、%の合計が100にならない場合がある。以下同じ。

時の法相・後藤田正晴の存在があったといわれる。検事長をどこの高検に補職するかは法相の権限である（検察庁法第16条）。1992年に発覚したいわゆる金丸事件の処理をめぐり、国民は検察への怒りを爆発させた。<sup>12)</sup> 検察への国民の信頼を取り戻すために、後藤田法相が人事慣行を無視して「特捜のエース」という切り札を切った（1993年5月13日付『河北新報』）。あるいは、後藤田による人事介入を恐れた検察主流派が、先回りして吉永の起用を具申した（1993年6月8日付『AERA』）とも推察されている。現職の検事総長である岡村泰孝が吉永に、吉永の次は根來泰周に総長ポストを譲ることを条件に吉永を東京に呼び戻したとの説もある（倉山 2018: 328）。とまれ例外的状況が吉永を東京高検検事長へと押し上げ、ついには検事総長に就かせたのである。

すなわち、歴代検事総長の前職をみると29人（90.6%）が東京高検検事長である。第5代の馬場義續以降、全員が東京高検検事長から上がっている。もちろん東京高検検事長であれば必ず検事総長になれるわけではない。そこには検事総長65歳、それ以外の検察官は63歳という定年年齢の違いも影響する。<sup>13)</sup>

ところで、2023年1月10日付で、畝本直美広島高検検事長が東京高検検事長に異動した。現在の甲斐行夫検事総長が2024年9月25日に定年退官となる。その時点で畝本はまだ62歳である。そこで、初の女性検事総長誕生が現実味を持って語られている。実は畝本は1985年中大卒で卒業後に同年の司法試験に合格しているので、「現役合格」の不文律から外れる。

甲斐の後任検事総長と本来目されていたのは、辻裕教仙台高検検事長（1983年司法試験合格・1984年東大卒、2023年7月11日依願退官）だったとされる。しかし、辻は法務事務次官時代に、政権の意向を受けて当時の黒川弘務東京高検検事長を検事総長に就かせるため、黒川の定年延長を立案する中心にいた。上述の「画策」である。その「前科」から仙台高検検事長から東京高検検事長への異動は見送られたと推測されている（村山 2023）。注9で説明した笠間と同様の特殊な事情から、不文律にとらわれずにはじめて女性が検事総長に就任しそうである。ちなみに検事総長の任免権は法律上は内閣にある（検察庁法第15条第1項）。とはいえ、後任者の事実上の指名権は現職の検事総長が握っているようだ（村山 2023）。「現職の検事総長の意向よりも、総長OBら先輩連の意向が強く作用する」との指摘もある（倉山 2018: 322）。加えて、法務事務次官の意見も尊重されるという（野村 1984: 23）。

歴代検事総長のうち 65 歳で定年退官、あるいはそれ以前に依願退官（『官報』上の記載は「願に依り本官を免ずる」）したあと、70 歳が定年退官年齢である最高裁判官に就いた者はいない。<sup>14)</sup>「検察官同一体の原則」<sup>15)</sup> から全検察官の指揮命令系統のトップにいた者が、最高裁判官として自分がかつて最終責任を負った事件を裁いては著しく公正さを欠く。

## 2 歴代次長検事

次長検事に就いた 29 人のリストが**基礎資料 2**である。全員が男性である。就任順と司法試験合格年順で逆転現象が 1 例だけ生じている。該当例は**基礎資料 2**の「司法試験合格年」列で太字で示した（以下、各**基礎資料**の「司法試験合格年」列の太字は同じ意味である）。出身大学については歴代検事総長に比べてかなり多様である（表 2-1）。私大出身者が中大の 10 人を含めて 12 人（41.4%）もいる。これと関連するののか、「現役合格」組は 16 人（55.2%）であり歴代検事総長よりかなり低い。

表 2-1：歴代次長検事の出身大学

	東大	京大	国公立大	私大	合計
人数	11	4	2	12	29
%	37.9	13.8	6.9	41.4	100

作成参照：基礎資料 2。以下同じ。

歴代就任者の前職も様々である（表 2-2）。検事長が 11 人と一番多い。彼らの中で高松高検検事長の 5 人と仙台高検検事長の 4 人が目立つ。そのほか広島と札幌が 1 人ずつとなっている。八つある検事長ポストの序列で札幌、高松は最下位、広島と仙台は下から 2 番目の位置づけと目されている（潮見 1966: 123）。<sup>16)</sup>次に多いのが最高検部長と検事正である。全国に 50 か所置かれている地検の長を検事正という。そこから次長検事に達した者の内訳は、東京地検検事正が 5 人を占める。そのほかに大阪と横浜が 1 人ずついる。いずれも「A 庁」とよばれる地検である。<sup>17)</sup>

最高検には総務部、監察指導部、刑事部、公安部、公判部の五つの部があるので、部長ポストも五つある。これらの中で検事長待機ポストとされる格上の部長ポストが刑事部長と公安部長である（渡邊 1997: 100）。次長検事にのぼった 7 人の部長のうち刑事部長が 6 人で公安部長が 1 人であり、そのうち 5 人が次長検事ののちに検事長へと進んでいる。

すなわち、次長検事は下位検事長、最上位検事正、または最高検格上部長が累進するポストとなっている。一方、法務事務次官からは 2002 年 1 月に就いた松尾邦弘以降 20 年以上就任者がいない。もはやこのルートは閉ざされたと思われる。前々職、前々々職にまで遡ると、全員に最高検の各部長、

東京高検次席検事（検事長を補佐するポスト）、A庁検事正、法務大臣官房長または法務省の各局長（とりわけ刑事局長）、および公安調査庁長官のいずれかの就任歴がある（基礎資料2の「前職」列で太字にしたポスト）。

表 2-2：歴代次長検事の前職

	最高検部長	検事長	検事正	法務事務次官	合計
人数	7	11	7	4	29
%	24.1	37.9	24.1	13.8	100

歴代次長検事の後職を集計したのが表 2-3 である。次長検事がわけても東京高検検事長の待機ポストであることは明らかである。次長検事から直接最高裁判事に就いた者が2人おり2人目の井嶋一友の事例が1995年8月となる。それ以来30年近く最高裁判事に転じた者はいない。このルートはすでに塞がれたと考えられる。ただし、次長検事で退官したのちに最高裁判事に任命される事例（古田佑紀、横田尤孝）、または、次長検事ののち検事長ポストを経て任命される事例（大堀誠一、根岸重治、甲斐中辰夫、池上政幸、堺徹）は依然としてみられる。ゆえに次長検事という経歴が最高裁判事就任を妨げるものではない。

表 2-3：歴代次長検事の後職

	東京高検 検事長	大阪高検 検事長	名古屋高検 検事長	広島高検 検事長	最高裁 判事	退官	合計
人数	16	1	2	1	2	6*	28**
%	57.1	3.6	7.1	3.6	7.1	21.4	100

\* 退官ののち最高裁判事に任命された者が2人いる。

\*\* 現職者は除くので（歴代就任者-1）となる。表 3-4、表 4-4、表 5-4、表 6-4、表 7-4、表 8-3、表 9-3、表 10-3 および表 11-3 も同じ。

### 3 歴代検事長・その1

#### (1) 歴代東京高検検事長

東京高検検事長には38人が就いている。基礎資料3がそのリストである。現職の畝本直美のみが女性である。就任順と司法試験合格年順で逆転現象が3例みられる（小貫芳信と小津博司は司法修習

生の期で逆転。小貫は27期、小津は26期)。歴代次長検事より東大と京大の出身者が多い(表3-1)。彼らは全員が「現役合格」しており、岡山大、一橋大、中大の該当者を合わせて31人(81.6%)が「現役合格」組である。2001年7月に就任した中大出身の松浦恂以降、21世紀に入って私大出身者も就任するようになった(中大6・明大1)。

表3-1: 歴代東京高検検事長の出身大学

	東大	京大	国公立大	私大	合計
人数	21	6	4	7	38
%	55.3	15.8	10.5	18.4	100

作成参照: 基礎資料3。以下同じ。

歴代就任者の前職は次長検事、検事長、法務事務次官のいずれかである(表3-2)。検事長についてブレイクダウンしたのが表3-3である。高松を除く六つの検事長から着任している。前々職、前々々職にまで遡ると、検事長2ポストならびに検事長および法務事務次官を務めた2人を除いて、全員が最高検の各部長、東京高検次席検事、A庁検事正、法務大臣官房長または法務省の各局長(とりわけ刑事局長)、および公安調査庁長官のいずれかに就いている(基礎資料3の「前職」列で太字にしたポスト)。彼らの中には法務総合研究所(以下、法総研)長も1人いる(小貫芳信)。

表3-2: 歴代東京高検検事長の前職

	次長検事	検事長	法務事務次官	合計
人数	15	15	8	38
%	39.5	39.5	21.1	100

表3-3: 歴代東京高検検事長の前職の検事長の内訳

	大阪	名古屋	広島	福岡	仙台	札幌	合計
人数	2	4	4	1	2	2	15
%	13.3	26.7	26.7	6.7	13.3	13.3	100

表 3-4 は歴代就任者の後職を示している。次のポストはほぼ検事総長だけであり、それに就けなければ退官する。伊藤榮樹から前任の落合義和までの 37 人の東京高検検事長の中で、検事総長に栄進したのは 19 人（51.4%）である。例外的に最高裁判事に就く場合がある。退官後の就任も含めて 5 人が最高裁判事に任命されている。これは何を意味しているのか。

表 3-4：歴代東京高検検事長の後職

	検事総長	最高裁判事	定年退官	依願退官	合計
人数	19	2	6*	10**	37
%	51.4	5.4	16.2	27.0	100

\* 定年退官ののち最高裁判事に任命された者が 1 人いる。

\*\* 依願退官ののち最高裁判事に任命された者が 2 人いる。

15 ある最高裁判官ポストのうち、検察官出身者は 2 ポストを占めることが慣例的に決まっている。現在は第一小法廷と第二小法廷に 1 ポストずつあり（西川 2020: 256, 263）、現職者が定年退官を迎えると、後任が検察官出身者から起用される。東京、大阪、もしくは名古屋高検の検事長なり次長検事なりを退官した者、または現職者が選ばれる。<sup>18)</sup> 最高裁判事が在官中死亡または依願退官した際には、現職検事長が最高裁判事に回されることがあった。<sup>19)</sup>

## (2) 大阪高検検事長

大阪高検検事長に就いた者は 30 人である（基礎資料 4）。彼らに女性はいない。就任順と司法試験合格年順に逆転はみられない。出身大学では次長検事と東京高検検事長の歴代就任者、さらに次項でみる歴代名古屋高検検事長に比べて、京大出身者が顕著に多い（表 4-1）。加えて阪大と関西大の出身者も 1 人ずつおり、地域的な配慮が働いていることがわかる。30 人中 28 人（93.3%）が「現役合格」組であり、この比率の高さは東京をしのいでいる。東京と異なり、私大出身者も早くから就任している。

表 4-1：歴代大阪高検検事長の出身大学

	東大	京大	国公立大	私大	合計
人数	10	8	6	6	30
%	33.3	26.7	20	20	100

作成参照：基礎資料 4。以下同じ。

歴代就任者の前職は検事長が圧倒的であり、そのほか次長検事からも来ている（表4-2）。この2ポストのみに限られる。言い換えれば、前述の「総長コース」の認証官直前ポストである法務事務次官から大阪高検検事長へ進むルートはないのである。「かつては捜査検事の最高ポストは、大阪高検検事長だった時代もあった」（渡辺 2002: 100）ことが影響していよう。「5（1）」で述べるように、検察官は法務省勤務が長い「赤レンガ組」とキャリアの大半を捜査現場で過ごす「現場組」に大別される。法務事務次官は「赤レンガ組」の最高峰ポストである。

検事長の内訳を吟味すると、東京を除く検事長6ポストからはほぼバランスよく就いている（表4-3）。高松からがやや多い。前々職、前々々職にまで遡ると、検事長2ポストを務めた1人を除いて全員に、最高検の各部長、東京高検次席検事、A庁検事正、法総研所長および公安調査庁長官のいずれかの勤務歴がある（基礎資料4の「前職」列で太字にしたポスト）。東京との違いは、法務省の各局長経由者が矯正局長を経た1人（尾崎道明）のみにとどまることである。これも「赤レンガ組」を大阪に「飛ばさない」証拠の一つになろう。

表 4-2：歴代大阪高検検事長の前職

	次長検事	検事長	合計
人数	2	28	30
%	6.7	93.3	100

表 4-3：歴代大阪高検検事長の前職の検事長の内訳

	名古屋	広島	福岡	仙台	札幌	高松	合計
人数	5	4	5	3	4	7	28
%	17.9	14.3	17.9	10.7	14.3	25	100

歴代就任者の後職からは、大阪高検検事長は「上がり」ポストと位置づけられていることがわかる（表4-4）。検事総長への途が開かれている東京とは対照的である。依願退官者が半数以上を占めているのも特徴的といえる。定年前に職を辞さなければ、人事が滞って後輩に「迷惑」がかかるとの心遣いが行き渡っているのだろう。東京に異動してのち検事総長に達した2例は前記の吉永も含めて30年以上前になる。もはや東京への栄転はありえまい。最高裁判事に転じた1例は、検察官出身の最高裁判事が健康上の理由で依願退官したという特殊事情による（注19参照）。



表 4-4：歴代大阪高検検事長の後職

	東京高検検事長	最高裁判事	定年退官	依願退官	合計
人数	2	1	10	16*	29
%	6.9	3.4	34.5	55.2	100

\* 依願退官ののち最高裁判事に任命された者が1人いる。

### (3) 名古屋高検検事長

歴代名古屋高検検事長34人のリストが基礎資料5である。ここも全員が男性であり、かつ司法試験合格年順に就任している。東大・京大出身者は合わせて約53%であり、東京高検検事長よりも20ポイント近く低く、大阪を7ポイント下回る（表5-1）。それと関連するののか、「現役合格」組は21人（61.8%）にとどまる。就任者の出身大学は早くから多様である。

表 5-1：歴代名古屋高検検事長の出身大学

	東大	京大	国公立大	私大	合計
人数	12	6	6	10	34
%	35.3	17.6	17.6	29.4	100

作成参照：基礎資料5。以下同じ。

歴代就任者の前職においては、大阪とは異なり次長検事・検事長以外のポストが3割近くに達している（表5-2）。つまり、名古屋は認証官でないポストからも就任可能な検事長ポストなのである。検事長ポストごとに細分化すると大阪とは逆に高松が少ない（表5-3）。また、法務事務次官を前職とするのは現職の高嶋智光だけである。前述のとおり、大阪高検検事長には事務次官経験者は歴代でだれもいなかった。高嶋の異動は異例中の異例の人事だと思われる。<sup>20)</sup>

法務省刑事局長から名古屋高検検事長に唯一就いた林真琴の人事も異例である。「3階級特進」といわれた。だが、これには林を法務事務次官に就けさせないという上川陽子法相（現・外相）の強い意向が働いたとされる。<sup>21)</sup>

表 5-2：歴代名古屋高検検事長の前職

	次長検事	検事長	法総研 所長	公安調査庁 長官	東京地検 検事正	最高検 刑事部長	法務 事務次官	法務省 刑事局長	合計
人数	2	22	2	3	2	1	1	1	34
%	5.9	64.7	5.9	8.8	5.9	2.9	2.9	2.9	100

表 5-3：歴代名古屋高検検事長の前職の検事長の内訳

	広島	福岡	仙台	札幌	高松	合計
人数	6	5	6	3	2	22
%	27.3	22.7	27.3	13.6	9.1	100

後職に関しては、大阪ほどではないにせよ多くの者にとって名古屋が「上がり」ポストになる（表 5-4）。恵まれて東京か大阪に栄転してもそこで行き止まりである。前記の林眞琴だけが東京を経て検事総長に届いた。<sup>22)</sup>

表 5-4：歴代名古屋高検検事長の後職

	東京高検検事長	大阪高検検事長	定年退官	依願退官	合計
人数	4	5	10*	14	33
%	12.1	15.2	30.3	42.4	100

\* 定年退官ののち最高裁判事に任命された者が 1 人いる。

## 4 歴代検事長・その2

### (1) 歴代広島高検検事長

基礎資料 6 は歴代広島高検検事長 35 人のリストである。就任者のうち女性は前述の畝本直美の 1 人だけである。就任順と司法試験合格年順に逆転が 4 例ある。出身大学については、東大・京大出身者で 5 割を超えその他 2 区分でも名古屋に似た傾向がある（表 6-1）。「現役合格」組は 21 人（60%）でこれも名古屋とさして変わらない。

表 6-1：歴代広島高検検事長の出身大学

	東大	京大	国公立大	私大	合計
人数	14	4	6	11	35
%	40	11.4	17.1	31.4	100

作成参照：基礎資料 6。以下同じ。

歴代就任者の前職になると名古屋より検事長の比率が下がり、検事正の比率が上がっている（表 6-2）。検事長は 3 ポストに限られ、特に高松は 5 割を超える（表 6-3）。これら 3 ポストは広島より下位の検事長ポストと考えられる。次長検事を加えても前職が認証官である者は 5 割に達しない。従って、広島は名古屋以上に認証官でないポストから就任できる検事長ポストである。検事正については東京（2）、大阪（2）、名古屋（1）、および横浜（1）であり、A 庁上位の検事正ポストから広島に上がっている。

表 6-2：歴代広島高検検事長の前職

	次長検事	検事長	法総研 所長	公安 調査庁 長官	検事正	最高検 公安 部長	最高検 検事	法務 事務 次官	法務省 矯正 局長	合計
人数	1	16	5	3	6	1	1	1	1	35
%	2.9	45.7	14.3	8.6	17.1	2.9	2.9	2.9	2.9	100

表 6-3：歴代広島高検検事長の前職の検事長の内訳

	仙台	札幌	高松	合計
人数	5	2	9	16
%	31.3	12.5	56.3	100

後職をみると、大阪や名古屋よりこのポストでの退官者の割合は低い（44.1%）（表 6-4）。広島は「上がり」ポストであるとともに、上位検事長へ進む途上ポストという性格も備えていることがわかる。ただ、最終ポストとして検事総長まで達したのは 3 人だけである。福岡へ 4 例の栄転者がいることから、注 5 で記した建制順とは異なり、広島より福岡が格上検事長ポストだとみなせる。

表 6-4：歴代広島高検検事長の後職

	次長検事	東京高検 検事長	大阪高検 検事長	名古屋高検 検事長	福岡高検 検事長	定年退官	依願退官	合計
人数	1	5	4	5	4	6	9	34
%	2.9	14.7	11.8	14.7	11.8	17.6	26.5	100

## (2) 歴代福岡高検検事長

福岡高検検事長に就いた 37 人をリスト化したのが基礎資料 7 である。全員男性である。就任順と司法試験合格年順の逆転は 3 例みられる。1950 年前後の 2 例に 1980 年代初頭にもう 1 例が加わった。東大・京大出身者が 5 割を超えるのは他の検事長ポストと変わらない一方、私大出身者が 4 割近いことが他ポストとの違いである（表 7-1）。これとの関連は不明であるが、「現役合格」組は 20 人（54.1%）と名古屋・広島より 5% 強低くなっている。

表 7-1：歴代福岡高検検事長の出身大学

	東大	京大	国公立大	私大	合計
人数	15	4	4	14	37
%	40.5	10.8	10.8	37.8	100

作成参照：表 7。以下同じ。

福岡の前職は広島より限られており、五つの区分にとどまる。名古屋に類似して、6 割近くが他の検事長から上がっている（表 7-2）。とりわけ、序列最下位とみられる札幌と高松で 7 割近くを占める（表 7-3）。

表 7-2：歴代福岡高検検事長の前職

	検事長	法総研所長	公安調査庁長官	検事正	最高検公安部長	合計
人数	22	2	2	9	2	37
%	59.5	5.4	5.4	24.3	5.4	100

表 7-3：歴代福岡高検検事長の前職の検事長の内訳

	広島	仙台	札幌	高松	合計
人数	4	3	8	7	22
%	18.2	13.6	36.4	31.8	100

後職では歴代就任者の半数が依願退官しており、定年退官者を含めると7割程度が福岡でキャリアを終えている（表7-4）。それ以外は上位の検事長に栄進している。福岡高検検事長は「上がり」ポストの性格が強い。東京高検検事長に転じた「1」は現在の甲斐行夫検事総長である。それまでこのルートはなかった。言い換えれば、福岡高検検事長から検事総長になる例はなかったのである。前述の黒川・林騒動から、法務事務次官の経験がなく政権・与党から距離のあるポストを歴任してきた甲斐を、検事総長に就けるための例外的人事だと考えられる。

表 7-4：歴代福岡高検検事長の後職

	東京高検検事長	大阪高検検事長	名古屋高検検事長	定年退官	依願退官	合計
人数	1	5	5	7	18	36
%	2.8	13.9	13.9	19.4	50	100

### (3) 歴代仙台高検検事長

基礎資料8が仙台高検検事長に就いた33人のリストである。やはり男性しか就いていない。就任順と司法試験合格年順の逆転はみられない。私大出身者が4割を上回っている（表8-1）。これは仙台と後述の高松のみの現象である。「現役合格」組は26人（78.8%）と大阪に次いで比率が高い。

表 8-1：歴代仙台高検検事長の出身大学

	東大	京大	国公立大	私大	合計
人数	11	7	1	14	33
%	33.3	21.2	3.0	42.4	100

作成参照：基礎資料8。以下同じ。

仙台の前職で特徴的なのは、検事長経験者は高松からしか来ていないことである（表8-2）。仙台高検検事長就任者の約85%はここではじめて検事長歴をつけている。検事正は他と同様に、A庁上位の東京（4）、大阪（4）、横浜（4）に限られる。最高検の部長からの異動は1980年代末で途絶えている。法務事務次官から転じる人事は2010年代から認められる。4人のうち2人はその後検事総長にのぼりつめた。残る2人のうちの1人である辻裕教は、黒川・林騒動の影響により仙台で「塩漬け」にされた（「1」および注22参照）。

表8-2：歴代仙台高検検事長の前職

	高松高検 検事長	法総研 所長	公安調査庁 長官	検事正	最高検 刑事部長	最高検 公安部長	法務 事務次官	合計
人数	5	4	5	12	2	2	3	33
%	15.2	12.1	15.2	36.4	6.1	6.1	9.1	100

後職については仙台での退官者が3割に満たないことが注目される（表8-3）。この点から仙台は広島にもまして上位検事長あるいは次長検事への通過点であると指摘できる。

表8-3：歴代仙台高検検事長の後職

	次長検事	東京高検 検事長	大阪高検 検事長	名古屋高検 検事長	広島高検 検事長	福岡高検 検事長	定年退官	依願退官	合計
人数	4	2	3	6	5	3	4	5	32
%	12.5	6.3	9.4	18.8	15.6	9.4	12.5	15.6	100

#### （4）歴代札幌高検検事長

札幌高検検事長に就いた29人は基礎資料9のとおりである。全員男性であり、就任順と司法試験合格年順の逆転はない。21人が「現役合格」組で72.4%に及ぶ。これと関連するのかわ、東大・京大出身者が6割近くに達している（表9-1）。これは大阪に近い高さである。

表 9-1：歴代札幌高検検事長の出身大学

	東大	京大	国公立大	私大	合計
人数	13	4	5	7	29
%	44.8	13.8	17.2	24.1	100

作成参照：基礎資料 9。以下同じ。

表 9-2 に示した前職の特徴として、就任者の約半数が検事正であることが挙げられる。内訳は大阪 (7)・名古屋 (2)・横浜 (3)・京都 (3) である。いずれも A 庁上位地検だが、東京からの着任はない。京都からは 1990 年代後半までで終わっている。一方、2000 年代後半以降、横浜からのルートが加わった。最高検刑事部長からの異動は 1990 年代末までである。現在の神村昌道の前々々職の静岡地検検事正は「上がり」ポストとされる。その在職中の 2020 年 2 月 19 日に開催された検察長官会同<sup>23)</sup>で、神村は黒川弘務東京高検検事長の定年延長に反対する発言をした。それをきっかけにエリートコースに戻され、最高検総務部長から札幌高検検事長に至ったとみられている (村山 2023)。最高検総務部長から他のポストをはさみずらに検事長に就いたのは、本稿が対象とした検察官 176 人の中では神村が初例になる。

表 9-2：歴代札幌高検検事長の前職

	法総研 所長	公安調査庁 長官	検事正	最高検 総務部長	最高検 刑事部長	最高検 公安部長	最高検 公判部長	法務 事務次官	合計
人数	2	2	15	1	3	2	1	3	29
%	6.9	6.9	51.7	3.4	10.3	6.9	3.4	10.3	100

後職をみると、退官者は歴代就任者の 4 分の 1 にとどまる (表 9-3)。札幌は仙台以上に、東京高検検事長はじめ上位検事長ポストに至るために、いわば検事長としての「研鑽」を積むポストになっている。

表 9-3：歴代札幌高検検事長の後職

	東京高検 検事長	大阪高検 検事長	名古屋高検 検事長	広島高検 検事長	福岡高検 検事長	定年退官	依願退官	合計
人数	3	4	4	2	8	2	5	28
%	10.7	14.3	14.3	7.1	28.6	7.1	17.9	100

### (5) 歴代高松高検検事長

基礎資料 10 は、高松高検検事長の歴代就任者 37 人のリストである。やはり全員男性で就任順と司法試験合格年順の逆転は 2 例ある。「現役合格」組は 22 人 (59.5%) でほぼ名古屋・広島並みである。私大出身者が仙台をしのいで最大の比率となっている (表 10-1)。

表 10-1：歴代高松高検検事長の出身大学

	東大	京大	国公立大	私大	合計
人数	9	7	5	16	37
%	24.3	18.9	13.5	43.2	100

作成参照：基礎資料 10。以下同じ。

前職については約半数が検事正である (表 10-2)。内訳は東京 (9)・大阪 (4)・横浜 (3)・京都 (1) となる。

表 10-2：歴代高松高検検事長の前職

	法総研所長	公安調査庁 長官	検事正	最高検 刑事部長	最高検 公安部長	最高検 公判部長	合計
人数	4	4	17	4	7	1	37
%	10.8	10.8	45.9	10.8	18.9	2.7	100



後職で目立つのは、ここでの退官者は直近の就任者である畝本毅までいなかったことである（表10-3）。高松は上位検事長あるいは次長検事へのぼることに特化した「研鑽」ポストといえよう。地理的に大阪、広島、福岡に「跳躍」する機会が多い。東京へ転じる例ない。<sup>24)</sup>

表 10-3：歴代高松高検検事長の後職

	次長検事	大阪高検 検事長	名古屋高検 検事長	広島高検 検事長	福岡高検 検事長	仙台高検 検事長	依願退官	合計
人数	5	7	2	9	7	5	1	36
%	13.9	19.4	5.6	25	19.4	13.9	2.8	100

## 5 歴代法務事務次官

### (1) 「赤レンガ組」と「現場組」

法律上は検察庁は法務省の「特別の機関」である。しかし実際には検察庁が法務省の上に「君臨」している。それは法務省の幹部人事をみれば明らかである。2023年春時点で、事務次官、大臣官房長、司法法制部長、民事局長、刑事局長、人権擁護局長、訟務局長はすべて検察官によって占められている<sup>25)</sup>（『政官要覧 令和5年春号』）。局長ポストで国家公務員採用試験による入省者が就いているのは、矯正局と保護局のみである。官房三課長とよばれる秘書課長・人事課長・会計課長をはじめ多くの課長ポストにも検察官が就いている。これはかつてから知られている事態である（潮見 1966: 122）。法務省の要職ポストは、検察官のキャリアアップのためのポストとしてずっと「活用」されてきた。彼らは東京高検検事または東京地検検事の肩書きを保持したまま、そのポストに就く。

このように検察官が法務省に勤務できる法的根拠が、法務省設置法附則3である。それは「当分の間、特に必要があるときは、法務省の職員（検察庁の職員を除く。）のうち、百三十三人は、検事をもってこれに充てることができる。」と定めている。検察官には、検事総長、次長検事、検事長、検事、副検事の五つの官がある。このうち検事の定員は2020年4月1日施行の通達「検察庁の職員の配置定員について」によれば、1,869人である。つまり、検事の約7.1%は「捜査・公判及び裁判の執行の指揮監督」（検察庁HPより）に携わらない。いわば「検事の仕事をしない検事」なのである。彼らは「充て検」とよばれる。最高裁事務総局に勤務する裁判しない判事・判事補を「充て判」と称するのと相似形をなしている。

この「充て検」の期間、言い換えれば法務省勤務が長い検事を、法務省旧本館の建物が赤レンガの外観をもつことにちなんで、「赤レンガ組」と称する。それに対する言葉が「現場組」である。裁判官に関しては裁判所行政の司令塔的官僚組織である最高裁事務総局を「陸」にたとえて、「充て判」

の長い裁判官は「陸上勤務組」と通称される。そうでない裁判官は「海上勤務組」と俗によばれる(西川 2005: 81-92)。

そして、検察でも裁判所でも現場経験の少ない「赤レンガ組」と「陸上勤務組」がエリートであるという点でも共通している。最高裁裁判官 15 ポストのうち慣例的に 6 ポストが職業裁判官に割り当てられる。その就任者のほとんどは「陸上勤務組」である。<sup>26)</sup> その点からすれば検察のほうがまだ現場経験を尊重した人事を行っている。「現場組」にとって垂涎的となるポストは、東京、大阪、および名古屋地検に置かれている特別捜査(以下、特捜)部の部長である。歴代検事総長 32 人中で特捜部長経験者は 5 人(15.6%)いる(基礎資料 1)。中でも「1」で取り上げた吉永祐介には法務官僚経験がほとんどない。<sup>27)</sup>

「多くの現場組が目指すキャリアのゴールは、各都道府県にある地検トップの検事正だ」(「特集 弁護士 裁判官 検察官」2017: 56)と指摘される。それでも特捜部長出身の検事総長が 15%以上を占めるのである。<sup>28)</sup> また、歴代東京高検検事長 38 人のうち特捜部長経験者は 7 人(18.4%)いる(基礎資料 3)。

## (2) 歴代法務事務次官

さて、法務事務次官は認証官ではないので、序列は認証官である検事総長、次長検事、各検事長の下になる。とはいえ法務・検察に関して絶大な人事権を実質的に握っている(野村 1984: 23、渡邊 2009: 26)。

戦前の司法省が 1948 年 2 月に法務庁に改組されて、法務府を経て法務省となるのは 1952 年 8 月のことである。歴代事務次官のうち司法修習終了者は 20 人いる(基礎資料 11)。法務大臣には女性がこれまで 7 人就いているが、事務次官は男性ばかりである。就任順と司法試験合格年順に逆転事例はない。東大と京大の出身者で 9 割に達する(表 11-1)。それとの関連か、20 人中 19 人(95%)が「現役合格」組という驚くべき比率になっている。

表 11-1: 歴代法務事務次官の出身大学

	東大	京大	国公立大	私大	合計
人数	16	2	1	1	20
%	80	10	5	5	100

作成参照: 基礎資料 11。以下同じ。

前職に関しては、法務省刑事局長が 8 割と圧倒的である(表 11-2)。法務省の局長ポストの中で刑事局長は別格的ポストなのである。さらに、前々職、前々々職にまで遡ると、合計で 13 人(65%)

が法務（省）大臣官房長の経歴をもつ。すなわち、法務（省）大臣官房長⇒法務省刑事局長⇒法務事務次官⇒東京高検検事長⇒検事総長という「総長コース」が歴然と確立されているのである。

表 11-2：歴代法務事務次官の前職

	東京地検検事正	法務省刑事局長	法務（省）大臣官房長*	出入国管理庁 在留管理庁次長	合計
人数	1	16	2	1	20
%	5	80	10	5	100

\*2001年1月からそれまでの法務大臣官房長から法務省大臣官房長に改称。

一方、後職として特筆すべきは、退官者が皆無であることだ。他の府省であれば事務次官ポストは出世の最終ポストであり、あとは退官するのみである。<sup>29)</sup>ところが、法務事務次官ポストに限ってはゴールではなく次の顕官、具体的には次長検事または検事長への通過点と位置づけられている（表 11-3）。上述の「総長コース」の存在から、次長検事に就いた3人中2人はその次に東京高検検事長に栄転した（残る1人は最高裁判事へ転出）。同様に、表 11-4で東京以外の検事長に進んだ8人中6人はその後職で東京高検検事長に到達した。つまり、事務次官に就けば早晩東京高検検事長に収まるのであり、そこで定年年齢に達するか不祥事で依願退官に追い込まれない限り、「総長コース」を全うできるのである。<sup>30)</sup>

表 11-3：歴代法務事務次官の後職

	次長検事	検事長	合計
人数	3	16	19
%	15.8	84.2	100

表 11-4：歴代法務事務次官の後職の検事長の内訳

	東京	名古屋	広島	仙台	札幌	合計
人数	8	1	1	3	3	16
%	50	6.3	6.3	18.8	18.8	100

## おわりに

これまで分析してきた検察官幹部 11 ポストの優劣関係をまとめたのが表 12-1 である。各行で太字の数字は前職の数を、網掛けの数字は後職の数を示している。検察官の人事には「官僚的昇進」(潮見俊隆) または「序列人事」(山下勝平) が貫徹されている。前職から後職へは横滑りではなく昇進するのである。従って、各行で太字の数字は対応するポストに対して優位であることを意味している。逆に各行で網掛けの数字は対応するポストに対して劣位ということになる。

たとえば、次長検事は総長、東京・大阪・名古屋の各高検検事長に対しては劣位であり、広島高検検事長とは互角、仙台・札幌・高松の各検事長と法務事務次官に対しては優位であることが確認できる。

11 ポストすべてを総合すると、次の序列となる。

検事総長 > 東京高検検事長 > 大阪高検検事長 > 名古屋高検検事長 > 福岡高検検事長 > 次長検事 = 広島高検検事長 > 仙台高検検事長 > 札幌高検検事長 > 高松高検検事長 > 法務事務次官

ただし、法務事務次官を検事長と同じ次元で優劣を比較するのは妥当ではあるまい。「5 (2)」で述べたとおり、認証官ではない法務事務次官が認証官の次長検事・検事長より昇進の上で劣位に置かれるのは当然である。だが、実際には法務事務次官は法相に代わって人事を取りしきる重責を担い、その経歴を資源として東京高検検事長に達する。

表 12-1: 検察官幹部 11 ポストの優劣関係

幹部ポスト (就任者総数)	検事長初任	総長	次長	東京	大阪	名古屋	広島	福岡	仙台	札幌	高松	事務次官
検事総長 (32)	——		<b>1</b>	<b>29</b>	0	0	0	0	0	0	0	0
次長検事 (29)	——	1		15	2	2	1   1	0	4	1	5	4
東京高検検事長 (38)	17	29	15		2	4	4	1	2	2	0	8
大阪高検検事長 (30)	2	0	2	2		5	4	5	3	4	7	0
名古屋高検検事長 (34)	12	0	2	4	5		6	5	6	3	2	1
広島高検検事長 (35)	19	0	1   1	4	4	6		4	5	2	9	1
福岡高検検事長 (37)	15	0	0	1	5	5	4		3	8	7	0
仙台高検検事長 (33)	28	0	4	2	3	6	5	3		0	5	3
札幌高検検事長 (29)	29	0	1	2	4	3	2	8	0		0	3
高松高検検事長 (37)	37	0	5	0	7	2	9	7	5	0		0
法務事務次官 (20)	——	0	4	8	0	1	1	0	3	3	0	

筆者作成。

表 12-1 の「検事長初任」の列で比較すれば、意外なのは検事長序列トップの東京高検検事長の歴代就任者に他の検事長ポスト未経験者が 17 人もいることである。とはいえ、検事長未経験の次長検事から東京高検検事長に上がった者が 9 人いる。そこで、検事長と次長検事を合わせた「認証官初任」者で数えると、歴代就任者 38 人中該当する者は 8 人とどまる。しかもその 8 人は「総長コース」に

乗った者で法務事務次官から昇進している（基礎資料3）。東京以外は序列に応じて下位に行くほど「検事長初任」者が多くなっている。

各幹部ポストで算出した就任者の「現役合格」率を集計したのが、表12-2である。検事総長と法務事務次官の「現役合格」率の高さを再確認できる。すなわち、検察官幹部人事にあっては、任官者を対等に競わせて適任者を最高幹部に引き上げていくのではない。任官当初から最高幹部候補者には目星がつけられていて、その養成コースに乗せて彼らを純粹培養していくシステムが確立されているのである。「現役合格」は将来性を担保する評価値と考えられている。

確かにこのやり方は人事の予測可能性を高め、政治の口出しに対する強力な防波堤になろう。政治腐敗の監視に強い期待がかかる権力機関として、人事の政治からの独立を根拠づける有用な不文律と評価することはできる。他方で、入り口で選抜されこれに該当しない検察官の士気に影響を及ぼさないか若干の懸念を禁じ得ない。それでも、「現場組」も検事総長にのぼりつめた例があることから、「5(1)」で略述した裁判官幹部人事よりは応能的な人事が行われていると思われる。もちろんそれも、政治に人事介入させないための「予期反応」にほかなるまい。

表12-2：各幹部ポスト就任者の「現役合格」率

	総長	次長	東京	大阪	名古屋	広島	福岡	仙台	札幌	高松	事務次官
人数	18	16	31	28	21	21	20	26	21	22	19
%	94.3	55.2	81.6	93.3	61.8	60	54.1	78.8	72.4	59.5	95

筆者作成。

## 注

- 1) 森本編（2016）の「第9章 司法」に「3 検察」があり、5頁にわたって日本の検察の特徴について記述がある（執筆者・小倉慶久）のは稀有な例外だろう。
- 2) 最近刊行された和足（2021）および和足（2023）はその意味で貴重な業績である。もちろん、元検察官やジャーナリストなどに筆者を広げれば、最新刊の弘中（2023）をはじめ参照・引用文献に掲げたものやそれ以外にも多数の書籍や記事がある。
- 3) 刑法学者の岡本洋一による岡本（2021）は、検察官幹部人事に焦点を当てたほぼ唯一の先行研究といってよい。ただし、黒川弘務、林眞琴、稲田伸夫のキャリアパスの検討が中心を占めており、遡及的に西川克行、大野耕太郎、小津博司の各検事総長のキャリアパスの分析が補われている。従って、検察官幹部人事の網羅的研究との立場はとっていない。
- 4) 認証官とは日本国憲法第7条第5号に基づき、内閣の助言と承認により国事行為の一種として行

われる天皇の認証、すなわち確認し証明する行為をその任免に必要とする官職をいう。

- 5) これら 10 の幹部ポストの建制順は、①検事総長、②東京高検検事長（以下、地名のみ）、③大阪、④次長検事、⑤名古屋、⑥広島、⑦福岡、⑧仙台、⑨札幌、⑩高松となる。
- 6) 法務事務次官は認証官ではなく、検察官出身者が就くが、就任と同時にその官を離れる。しかし、検察官幹部人事を論じる上で不可欠なポストなので本稿の分析対象に含めた。
- 7) 1949 年 5 月 31 日に司法試験法が公布・施行された。歴代検事総長のうち伊藤榮樹と前田宏は同法施行前の高等試験司法科試験の合格者であるが、同法附則の「5 高等試験司法科試験に合格した者は、この法律による司法試験に合格した者とみなす。」により司法修習を経た。
- 8) 各**基礎資料**で司法試験合格年より大学卒業年が後であれば、それは在学中に司法試験に合格したことを意味する。
- 9) 笠間治雄は 1970 年 3 月に中央大学を卒業してのち 1971 年 10 月に司法試験に合格し 1972 年 4 月に司法修習生となった。いわば司法浪人 2 浪であり、本来検事総長の候補者ではなかった。ところが、2010 年に発覚した大阪地検特捜部の証拠品改ざん・犯人隠避事件のため、同年 6 月に就任したばかりの大林宏検事総長が同年 12 月 27 日付で引責辞任した。当時東京高検検事長だった笠間は 2011 年 1 月 1 日に 63 歳の定年退官日を控えていた。その日より前に笠間を検事総長（定年は 65 歳）に引き上げる必要から、御用納めの前日のあわただしい人事異動になったと推察される。
- 10) 司法修習期間は 52 期（1998 年採用）までは 2 年間だった。53 期（1999 年採用）から 59 期（2005 年採用）までは 1 年 6 か月へと、さらに旧 60 期（2006 年採用）から旧 65 期（2011 年採用）までは 1 年 4 か月へと短縮された。一方で新 60 期（2006 年採用）から修習期間は 1 年となり現在に至っている（「司法修習はこう変わった 前編」2017: 31-32）。
- 11) 「検察関係者によると、歴代検事総長のほとんどは「総長コース」を歴任してきた。総長コースとは、検事人事などの実務を担当する法務省人事課長、内部統制に加えて法案や人事などを巡り、首相官邸や与野党と折衝する法務省官房長、刑事局長、法務事務次官などを指している」2023 年 1 月 25 日付「あなたの静岡新聞」(<https://www.at-s.com/news/article/national/1183399.html>；最終閲覧日・2023 年 9 月 30 日)。注 3 で紹介した岡本も類似の指摘をしている。「検事総長への経歴にとって、東京高検検事長以外には、法務省の各ポスト、つまり、法務事務次官・法務省刑事局長そして法務省大臣官房長という 3 つのポストが、重要な意義をもっているということが確認できる」岡本（2021: 175）。
- 12) 1992 年 8 月に、東京佐川急便が当時の自民党副総裁・金丸信に対して 5 億円をヤミ献金したと報じられた。翌月に東京地検特捜部は金丸を政治資金規正法の量的制限違反の罪で略式起訴した。しかし特捜部は金丸の事情聴取を行うことなく、罪を認める上申書提出による罰金 20 万円でこの事件を決着させた。この大甘決着に国民は激高した。検察庁の表札には黄色いペンキがかけられた。
- 13) 2021 年 6 月 11 日公布の改正検察庁法（国家公務員法等の一部を改正する法律）で検察官の定年

は65歳に引き上げられた(検察庁法第22条第1項)が、次長検事と検事長の役職定年は63歳に据え置かれた(同条第3項)。また、検事正については「法務大臣は、検事正の職を占める検事が年齢六十三年に達したときは、年齢が六十三年に達した日の翌日に他の職に補するものとする。」(同第9条第2項)と年齢上限が定められた。63歳で検事正から降格となるので、対象者のほとんどは退官するとみられる。従って、定年引き上げの「恩恵」を受けるのは副検事に限られよう。

- 14) ただし、福井盛太検事総長が最高裁長官の最有力候補として報じられたことがあった(1950年2月20日付『読売新聞』)。1950年3月2日に定年退官を迎える初代最高裁長官の三淵忠彦の後任としてである。ところが、民主野党派は2月21日に「犯罪を追及する立場にある」福井を「最高裁の長官にすることは裁判官と検事とを明確に区別する新憲法の精神に反する」として、福井の最高裁長官就任に反対を表明した(1950年2月22日付『朝日新聞』)。そして翌日には福井は「選外に落ちた模様である」と報じられる(1950年2月23日付『朝日新聞』)。ただ、1950年2月28日付『読売新聞』は「在野法曹界の長老たちは(略)敢然として福井検事総長を最適任であるとなし」と伝えた。一方で、同日付『毎日新聞』は「最高裁長官 田中耕太郎に内定」との見出しの記事を1面トップに載せた。その記事は「福井総長は裁判所とは全く相対した検察の長としてすでに四カ年も在職しており、また世評では民自党系とみられているので適当でないという考えが強くなつて候補者の中からまず消えた」と、福井が候補から除外された事情を解説している。3月1日付で「最高裁判所長官 田中耕太郎氏指名」(読売)、「田中耕太郎氏決る 最高裁判所長官後任」(朝日)と他の2紙が後追いついた。ところで、矢口洪一元最高裁長官は法曹一元を支持する立場から、「検事総長をやった人が最高裁判事になってもいい」と述べている(矢口2004:260)。
- 15) 「検察官同一体の原則は、それぞれ独立の官庁である全国の検察官が、検事総長を頂点とし、検事総長、検事長および検事正の指揮監督権によって結合されたピラミッド型の機能上の機構を形成していること(略)をその内容としている」(伊藤1986:72)。
- 16) 検事長ポストの序列をめぐるのは、潮見のように最下位を札幌、高松とする指摘((角間1977:98)、(渡邊1997:99))がある一方、仙台、高松をそれに位置づける見方もある(久保1989:139)。8ポストの序列に関する私見は「おわりに」に掲げた。各検事長ポストの就任順に基づく優劣関係から導き出したものである。
- 17) 「A庁」とは東京、立川、横浜、さいたま、千葉、大阪、京都、神戸、名古屋の各地検(立川は東京地検の支部)をいう(「検察の出世とお金」2020:63)。
- 18) 次の注19の事例以外に、現職の検事長・次長検事が最高裁判事に転じた事例として次の7件がある。草鹿浅之介(1900年生・大阪高検検事長から1962年8月12日付)、長部謹吾(1901年生・次長検事から1963年4月5日付)、天野武一(1908年生・大阪高検検事長から1971年5月21日付)、岡原昌男(1909年生・大阪高検検事長から1970年10月28日付)、藤島昭(1924生・

次長検事から1985年5月23日付)、井嶋一友(1932年生・次長検事から1995年8月11日付)、および甲斐中辰夫(1940年生・東京高検検事長から2002年10月7日付)。

- 19) 外交官出身の高島益郎最高裁判事が1988年5月2日に死亡し、大堀誠一東京高検検事長が後任に入った。検察官出身の小貫芳信が2018年1月16日に健康上の理由から依願退官(5日後に死亡)した際には、三浦守大阪高検検事長が後を継いだ。
- 20) 法務事務次官の次に東京高検検事長以外の検事長ポストに就いた者のほとんどは、次かその次に東京高検検事長に転じて検事総長に達している(基礎資料11)。つまりは「総長コース」に乗っている者ばかりである。法務事務次官の前職は「総長コース」の法務省刑事局長である。ところが高嶋は法務事務次官の前には出入国管理庁次長であり、さらにその前は法務省人権擁護局長である。「総長コース」からは明らかに外れている。
- 21) 林は法務事務次官と格下検事長ポストを「飛び級」して名古屋高検検事長へ「3階級特進」した。しかし法務事務次官をスキップすることは「総長コース」から外れることと同義である。林には不本意だった。一方、林を法務事務次官に就ける構想は法務・検察内で何度か練られてきた。2018年1月の人事でようやくそれが実現しかけたが、任命権者である法相の上川が強い難色を示して覆したとされる。国際仲裁センターの日本誘致で上川と林の間に意見の相違があったことなどが理由のようだ(村山2018)。
- 22) これにはいわゆる黒川・林騒動が絡んでいる。西川克行検事総長時代(2016年5月～2018年7月)に次の検事総長には稲田伸夫仙台高検検事長が有力視され、次の次は黒川弘務法務事務次官か林眞琴法務省刑事局長かと目されていた(「特集 弁護士 裁判官 検察官」2017: 57)。「下馬評」どおり、稲田は2017年9月に東京高検検事長に、そして2018年7月には西川の後任検事総長に就いた。それに先立つ2018年1月に林は名古屋高検検事長に異動した。一方、2019年1月に黒川は東京高検検事長のポストを射止めて、2人の出世争いに決着がついたと思われた。黒川は1957年2月8日生まれのため、2020年2月7日に63歳の定年に達してしまう。そこで、黒川検事総長を熱望する政権側が黒川の定年延長を画策すると、世論の猛反発にあった。その渦中でしかもコロナ禍で緊急事態宣言が発令されていた2020年5月初旬に、黒川が新聞記者3人と賭けマージャンをしていたと『週刊文春』(電子版)が5月20日に報じた。黒川はこれを認めて、5月22日付で辞職する。5月26日付で林が名古屋から東京に異動し、2か月も経たない7月17日に検事総長に就任する。もし賭けマージャンが発覚しなければ黒川は検事総長に就いていたであろうし、ならば畝本直美が東京高検検事長となって女性初の検事総長の座をほぼ確実にすることもなかった。
- 23) 検事総長、次長検事、全国の検事長および検事正、法総研所長、公安調査庁長官、法務省幹部らが出席する。
- 24) とはいえ、高松高検検事長の経歴は東京高検検事長への到達を阻むものではない。藤永幸治と甲斐中辰夫は高松のあと次長検事をはさんで東京へ栄転した。さらに甲斐中は検事総長にのぼった。



- 25) ただし、民事局長と訟務局長にはいわゆる判検交流として、裁判官が検察官に転官して就いている。とりわけ民事局長は裁判官の出世コースに位置づけられており、このポストのあと裁判所に戻って地裁所長から高裁長官、さらには最高裁裁判官にまで達する者もいる。寺田逸郎元最高裁長官もその一人である。
- 26) 前注で指摘した法務省民事局長上がりの幹部裁判官は、若くして法務省に出されるので最高裁事務総局の勤務経験はないが、「裁判しない裁判官」である点では「陸上勤務組」と同質である。
- 27) 吉永祐介は1950年4月に東京地検検事として検察官に任官した。その後、長野、札幌、東京地検八王子支部と各地検を異動する。1972年8月15日付で法務省刑事局参事官となりようやく「赤レンガ」入りする。しかし、1975年6月5日付で東京高検検事（東京地検検事併任）に転じた。吉永が「赤レンガ」にいたのはこのわずか3年弱にすぎない。その後は、東京地検特捜部長、最高検検事、東京地検次席検事、宇都宮地検検事正、最高検公判部長、東京地検検事正を歴任した。次に広島高検検事長として認証官となり、大阪高検検事長、東京高検検事長を経て、1996年1月16日付で検事総長に至った。
- 28) もちろん、検事総長にのほりつめた彼らとて捜査検事から検察庁幹部へと一直線に進んだわけではなく、前注でみた吉永のように法務省勤務など現場を離れた経験ももっている。検察庁の外に出た経験がないのは笠間治雄だけである。一方で、岡村泰孝はキャリアの後期になって法務大臣官房長に出されて法務省の出世の階梯をのぼって検事総長に至った。これらの意味で「15%以上」は割り引いて考える必要がある。
- 29) ただし、外務事務次官については駐米大使など主要国の大使に任用される場合が少なくない。外務省の公式見解は「大使の任用については、その者が外務事務次官の経験者であるか否かにかかわらず、適材適所の観点に立って公正かつ厳格に判断する必要があると考えている」となっている。「衆議院議員鈴木宗男君提出外務事務次官経験者の大使任用に関する質問に対する答弁書」（2006年4月21日）。
- 30) 退官してキャリアが完了した歴代法務事務次官18人のうち、次長検事ののち最高裁判事に転じた藤島昭と、注22で紹介した黒川・林騒動の余波で仙台高検検事長に「塩漬け」されて依願退官した辻裕教（村山2023）を除く16人をみると、12人が「総長コース」を全うしている。残る4人のうち2人（根來泰周・濱邦久）は東京高検検事長で定年を迎えた。根來は吉永祐介検事総長の後任として有力視されていた。だが、吉永には根來に譲る意思はなく、吉永は留任し続け根來を定年退官に追い込んだ（渡邊2009: 268-269）。根來は法務事務次官時代に、竹下登政権の発足に先立って、「ほめ殺し」とよばれる妨害活動を行った右翼団体・皇民党の後見人に「お詫びの手紙」を送ったという過去があった。ほぼ全文が1992年12月3日付『週刊文春』に「独占スクープ 検察の威信、揺らぐ 根來法務次官が皇民党名付け親に出した「釈明の手紙」と題されて掲載された。これは国会質疑でも取り上げられた（1992年12月7日・参議院法務委員会）。あとの2人は愛人問題（則定衛）と賭けマージャン問題（黒川弘務）という不祥事で依願退官した。

参照・引用文献

- 伊藤栄樹（1986）『新版 検察庁法逐条解説』良書普及会。
- 潮見俊隆（1966）「戦後の日本社会と法律家 二 検察官」同編『岩波講座 現代法6 現代の法律家』岩波書店。
- 大野達三（1992）『日本の検察』新日本出版社。
- 岡本洋一（2021）「検察官の経歴・人事についての一考察」『熊本法学』第151号。
- 角間隆（1977）『日本の司法 裁判官・検察官・弁護士』サンケイ出版。  
『官報』
- 久保博司（1989）『日本の検察』講談社文庫。
- 倉山満（2018）『検証 検察庁の近現代史』光文社新書。
- 「検察の出世とお金」（2020）『週刊東洋経済』2020年11月7日号。
- 「国民審査公報」（各回次版）
- 「司法修習はこう変わった 前編」（2017）『NIBEN Frontier』2017年11月号。  
『政官要覧 令和5年春号』（2023）政官要覧社。
- 堂島慧（1974）『検察庁』教育社新書。
- 「特集 弁護士 裁判官 検察官」（2017）『週刊ダイヤモンド』2017年2月25日号。
- 西川伸一（2005）『日本司法の逆説』五月書房。
- （2020）『増補改訂版 裁判官幹部人事の研究』五月書房新社。
- 野村二郎（1984）『検事総長の戦後史』ビジネス社。
- （1991）『[新版] 日本の検察』日本評論社。
- 弘中惇一郎（2023）『特捜検察の正体』講談社現代新書。
- 「弁護士山中理司のブログ」（<https://yamanaka-bengoshi.jp/>）
- 村山治（2012）『検察』新潮新書。
- （2018）「上川法相が林刑事局長の次官昇格を拒否か、検事総長人事は？」『法と経済のジャーナル』2018年1月18日付  
（<https://judiciary.asahi.com/jiken/2018011200001.html>；最終閲覧日・2023年9月30日）。
- （2023）「初の女性検事総長誕生へ 元本命の辻氏はさらしもの」『論座』2023年2月15日付  
（<https://webronza.asahi.com/judiciary/articles/2023021500001.html>；最終閲覧日・2023年9月30日）。
- 森本哲郎編（2016）『現代日本の政治』法律文化社。
- 矢口洪一（2004）『矢口洪一 オーラル・ヒストリー』政策研究大学院大学。
- 山下勝平（1979）「権力の中樞を握る法務・検察官僚の序列人事」『財界展望』第23巻第5号。
- 渡邊文幸（1997）「法務省検察庁研究」『月刊官界』第23巻第8号。
- （2009）『検事総長』中公新書ラクレ。

渡辺文幸（2002）『法務省』 インターメディア出版。

和足憲明（2021）「検察捜査の基礎資料」『創価法学』第51巻第2号。

———（2023）「第2次安倍政権における検察捜査の質的变化」『創価法学』第53巻第1号。

新聞各紙。

歴代検事総長 1 基礎資料

氏名	生年	性別	出身大学	司法試験合格年	大学卒業年	就任	退任	退官形態	前職1	前職2	前職3	特捜部長
1 福井 盛大	1885	男	東大		1913	19470804	19500713	依願退官	大審院検事総長	弁護士		
2 佐藤 藤佐	1894	男	東大		1921	19500714	19570723	依願退官	法務府刑政長官	法務行政長官		
3 花井 忠	1894	男	東大		1919	19570723	19590512	依願退官	東京高検検事長	弁護士		
4 清原 邦一	1899	男	東大		1924	19590512	19640108	依願退官	次長検事	法務事務次官	法務府刑政長官	
5 馬場 義統	1902	男	東大		1927	19640108	19671102	依願退官	東京高検検事長	法務事務次官	最高検検事	
6 井本 臺吉	1905	男	東大		1928	19671102	19700331	依願退官	東京高検検事長	大阪高検検事長	福岡高検検事長	
7 竹内 壽平	1908	男	東大		1932	19700331	19730202	依願退官	東京高検検事長	法務事務次官	法務省刑事局長	
8 大澤 一郎	1910	男	京大		1932	19730202	19750125	依願退官	東京高検検事長	次長検事	法務事務次官	東京
9 布施 健	1912	男	東大		1936	19750125	19770320	定年退官	東京高検検事長	次長検事	高松高検検事長	
10 神谷 尚男	1914	男	東大		1937	19770322	19790416	定年退官	東京高検検事長	法務事務次官	東京地検検事正	
11 辻 辰三郎	1916	男	東大		1940	19790417	19810722	定年退官	東京高検検事長	次長検事	最高検検事部長	
12 安原 美穂	1919	男	京大		1943	19810723	19831202	依願退官	東京高検検事長	法務事務次官	法務省刑事局長	
13 江幡 修三	1921	男	東大		1943	19831202	19851219	依願退官	東京高検検事長	次長検事	東京地検検事正	
14 伊藤 榮樹	1925	男	東大	1947	1947*	19851219	19880324	依願退官	東京高検検事長	次長検事	法務事務次官	
15 前田 宏	1926	男	東大	1948	1949	19880324	19900510	依願退官	東京高検検事長	法務事務次官	法務省刑事局長	
16 寛 栄一	1927	男	東大	1950	1951	19900510	19920526	定年退官	東京高検検事長	法務事務次官	法務省刑事局長	
17 岡村 泰孝	1929	男	京大	1952	1953	19920527	19931212	依願退官	東京高検検事長	次長検事	法務事務次官	東京
18 吉永 祐介	1932	男	岡山大	1952	1953	19931213	19960116	依願退官	東京高検検事長	大阪高検検事長	広島高検検事長	東京
19 土肥 孝治	1933	男	京大	1955	1956	19960116	19980623	依願退官	東京高検検事長	次長検事	次長検事	大阪
20 北島 敬介	1936	男	東大	1958	1959	19980623	20010702	依願退官	東京高検検事長	法務事務次官	最高検公安部長	
21 原田 明夫	1939	男	東大	1962	1963	20010702	20040625	依願退官	東京高検検事長	法務事務次官	法務省刑事局長	
22 松尾 邦弘	1942	男	東大	1965	1966	20040625	20060630	依願退官	東京高検検事長	次長検事	法務事務次官	
23 但木 敬一	1943	男	東大	1966	1967	20060630	20080630	定年退官	東京高検検事長	法務事務次官	法務大臣官房長	
24 樋渡 利秋	1945	男	東大	1967	1968	20080701	20100617	依願退官	東京高検検事長	法務事務次官	法務事務次官	
25 大林 宏	1947	男	一橋大	1969	1970	20100617	20101227	辞職#	東京高検検事長	札幌高検検事長	法務事務次官	
26 笠間 治雄	1948	男	中大	1971	1970	20101227	20120720	辞職#	東京高検検事長	広島高検検事長	次長検事	東京
27 小津 博司	1949	男	東大	1971	1972	20120720	20140718	依願退官	東京高検検事長	次長検事	札幌高検検事長	
28 大野恒太郎	1952	男	東大	1973	1974	20140718	20160905	辞職#	東京高検検事長	仙台高検検事長	法務事務次官	
29 西川 克行	1954	男	東大	1976	1977	20160905	20180725	依願退官	東京高検検事長	札幌高検検事長	法務事務次官	
30 稲田 伸夫	1956	男	東大	1978	1979	20180725	20200717	依願退官	東京高検検事長	仙台高検検事長	法務事務次官	
31 林 眞琴	1957	男	東大	1980	1981	20200717	20220624	依願退官	東京高検検事長	名古屋高検検事長	法務省刑事局長	
32 甲斐 行夫	1959	男	東大	1981	1982	20220624	○		東京高検検事長	福岡高検検事長	高松高検検事長	

\*19470930卒

#「官報」に記載がなく、新聞では「辞職」と報じられる。

前職4：法務事務次官

基礎資料2 歴代次長検事

氏名	生年	性別	出身大学	司法試験合格年	大学卒業年	就任	退任	後職1	後職2	後職3	前職1	前職2	前職3
1 伊藤 梁樹	1925	男	東大	1947	1947*	19810723	19831202	東京高検検事長	検事総長		法務事務次官	法務省刑事局長	最高検検事
2 藤島 昭	1924	男	東大	1947	1947*	19831202	19850523	最高裁判事			法務事務次官	東京高検次席検事	最高検検事
3 大堀 誠一	1925	男	東北大	1948	1946	19850523	19880324	東京高検検事長	最高裁判事		東京地検検事正	東京高検次席検事	最高検検事
4 根岸 重治	1928	男	東大	1949	1952	19880324	19900510	東京高検検事長	最高裁判事#		最高検刑事部長	最高検総務部長	法務大臣官房長
5 岡村 泰孝	1929	男	京大	1952	1953	19900613	19911212	東京高検検事長	検事総長		法務事務次官	法務省刑事局長	法務大臣官房長
6 藤永 幸治	1930	男	京大	1952	1954**	19911212	19920527	東京高検検事長			高松高検検事長	最高検刑事部長	東京高検次席検事
7 土肥 孝治	1933	男	京大	1955	1956	19920527	19930702	東京高検検事長	検事総長		大阪地検検事正	神戸地検検事正	奈良地検検事正
8 井嶋 一友	1932	男	京大	1956	1957	19930702	19950811	最高裁判事			高松高検検事長	最高検刑事部長	法務省刑事局長
9 北島 敬介	1936	男	東大	1958	1959	19950811	19971202	東京高検検事長	検事総長		最高検公安部長	最高検総務部長	東京高検次席検事
10 堀口 勝正	1937	男	中大	1960	1960	19971202	19991222	依願退官			最高検刑事部長	最高検総務部長	水戸地検検事正
11 松浦 惇	1939	男	中大	1962	1962	19991222	20010702	東京高検検事長			最高検検事長	横浜地検検事正	東京高検次席検事
12 甲斐中辰夫	1940	男	中大	1963	1962	20010702	20020118	東京高検検事長	最高裁判事		高松高検検事長	東京地検検事正	最高検刑事部長
13 松尾 邦弘	1942	男	東大	1965	1966	20020118	20030929	東京高検検事長			法務事務次官	法務省刑事局長	最高検検事
14 吉田 祐紀	1942	男	東大	1966	1967	20030929	20041210	最高裁判事#			最高検刑事部長	最高検総務部長	法務省刑事局長
15 町田 幸雄	1942	男	東大	1966	1967	20041210	20050702	定年退官			仙台高検検事長	公安調査庁長官	最高検刑事部長
16 上田 寛一	1943	男	明大	1966	1966	20050704	20060630	東京高検検事長			仙台高検検事長	高松高検検事長	東京地検検事正
17 楯田 尤孝	1944	男	中大	1969	1969	20060630	20071001	最高裁判事#			広島高検検事長	法務省矯正局長	法務省保護局長
18 空閑 治雄	1948	男	中大	1971	1970	20071002	20090127	広島高検検事長	東京高検検事長	検事総長	高松高検検事長	東京高検次席検事	東京地検次席検事
19 伊藤 敦男	1948	男	中大	1972	1971	20090116	20101227	依願退官			札幌高検検事長	東京高検次席検事	東京地検次席検事
20 小澤 博司	1949	男	東大	1971	1972	20101227	20110811	東京高検検事長	検事総長	最高裁判事#	最高検刑事部長	法務事務次官	法務省刑事局長
21 池上 政幸	1951	男	東北大	1974	1975	20110811	20120720	名古屋地検検事長	大阪高検検事長		最高検刑事部長	最高検公判部長	最高検検事
22 渡辺 憲一	1954	男	東大	1975	1976	20120720	20140718	東京高検検事長			東京地検検事正	東京高検次席検事	東京地検次席検事
23 伊丹 俊彦	1953	男	早大	1977	1976	20140718	20151210	大阪高検検事長			東京地検検事正	東京高検次席検事	最高検総務部長
24 青沼 隆之	1955	男	中大	1978	1978	20151210	20160905	名古屋高検検事長			東京地検検事正	東京高検次席検事	法務省保護局長
25 八木 宏幸	1956	男	中大	1978	1979	20160905	20180725	東京高検検事長			東京地検検事正	最高検刑事部長	最高検公安部長
26 堺 徹	1958	男	東大	1981	1982	20180725	20200717	東京高検検事長	最高裁判事#		仙台高検検事長	東京地検検事正	東京高検次席検事
27 落合 義和	1960	男	東大	1983	1984	20200717	20220624	東京高検検事長			最高検刑事部長	さいたま地検検事正	東京地検次席検事
28 山上 秀明	1960	男	中大	1984	1983	20220624	20230711	依願退官			高松高検検事長	東京地検検事正	最高検公安部長
29 齋藤 隆博	1963	男	中大	1986	1985	20230711	○				横浜地検検事正	最高検刑事部長	東京地検次席検事

\*19470930卒 \*\*大学院1学年修了

#前示ノ卜退官後ニ就任

基礎資料3 歴代東京高検検事長

氏名	生年	性別	出身大学	司法試験合格年	大学卒業年	就任	退任	後職	前職1	前職2	前職3	特捜部長
1 伊藤 宏樹	1925	男	東大	1947	1947*	1983/202	1985/1219	検事総長	次長検事	法務省刑事次官	法務省刑事局長	
2 前田 崇	1926	男	東大	1948	1949	1985/1219	1988/0324	検事総長	法務事務次官	法務省刑事局長	法務大臣官房長	
3 大畑 誠一	1925	男	東北大	1948	1946	1988/0324	1988/0617	最高裁判事	次長検事	東京地検検事正	東京高検次席検事	
4 箕 栄一	1927	男	東大	1950	1951	1988/0617	1990/0510	検事総長	法務事務次官	法務省刑事局長	法務大臣官房長	
5 根岸 重治	1928	男	東大	1949	1951	1990/0510	1991/1203	最高裁判事#	次長検事	最高検刑事部長	最高検総務部長	
6 岡村 泰孝	1929	男	京大	1952	1953	1991/1212	1992/0527	検事総長	次長検事	法務事務次官	法務省刑事局長	東京
7 藤永 幸治	1930	男	京大	1952	1954**	1992/0527	1993/0630	依願退官	次長検事	高松高検検事長	最高検刑事部長	
8 吉永 祐介	1932	男	岡山大	1952	1953	1993/0722	1993/1210	検事総長	大阪高検検事長	広島高検検事長	東京地検検事正	東京
9 根来 泰治	1932	男	京大	1955	1956	1993/1222	1995/0730	定年退官	法務事務次官	法務省刑事局長	法務大臣官房長	
10 土肥 善治	1933	男	京大	1955	1956	1995/0731	1996/0116	検事総長	大阪高検検事長	法務省刑事局長	大阪地検検事正	大阪
11 濱 邦久	1934	男	京大	1956	1957	1996/0116	1997/1201	定年退官	法務事務次官	法務省刑事局長	最高検検事	
12 北島 敬介	1936	男	東大	1958	1959	1997/1202	1998/0623	検事総長	次長検事	最高検公安部長	東京地検検事正	
13 則定 衛	1938	男	東大	1960	1961	1998/0623	1999/0413	依願退官	法務事務次官	法務省刑事局長	法務大臣官房長	
14 村山 弘義	1937	男	新潟大	1959	1959	1999/0426	1999/1222	依願退官	名古屋高検検事長	法務省刑事局長	最高検公安部長	
15 原田 明夫	1939	男	東大	1962	1963	1999/1222	2001/0702	検事総長	法務事務次官	法務省刑事局長	最高検公安部長	
16 甲斐中辰夫	1939	男	中六	1962	1962	2001/0702	2002/0118	辞職#	次長検事	仙台高検検事長	横浜地検検事正	
17 木藤 繁夫	1940	男	東大	1962	1964	2002/0118	2002/1007	最高裁判事	次長検事	高松高検検事長	東京地検検事正	東京
18 松尾 邦弘	1942	男	東大	1965	1966	2003/0928	2004/0625	定年退官	広島高検検事長	公安調査庁長官	最高検公安部長	
19 但木 敬一	1943	男	東大	1966	1967	2004/0625	2006/0630	検事総長	次長検事	法務事務次官	法務省刑事局長	
20 上田 廣一	1943	男	明大	1966	1966	2006/0630	2006/1216	定年退官	次長検事	法務大臣官房長	最高検検事	
21 榎渡 利秋	1945	男	東大	1967	1968	2008/0701	2008/0701	検事総長	広島高検検事長	法務事務次官	法務省刑事局長	
22 笠間 治雄	1948	男	一橋大	1971	1970	2010/0617	2010/1227	検事総長	広島高検検事長	法務事務次官	法務省刑事局長	
23 小賀 芳信	1948	男	中大院	1971	1973	2010/1227	2011/0811	最高裁判事#	次長検事	法務事務次官	最高検公安部長	
24 小津 博司	1949	男	東大	1971	1972	2011/0811	2012/0720	検事総長	名古屋高検検事長	法務事務次官	最高検公安部長	
25 大野恒太郎	1952	男	東大	1973	1974	2012/0720	2014/0718	検事総長	仙台高検検事長	法務事務次官	法務省刑事局長	
26 渡辺 意一	1954	男	東大	1975	1976	2014/0718	2015/1210	依願退官	次長検事	東京地検検事正	東京高検次席検事	
27 田内 正宏	1954	男	東大	1976	1977	2015/1210	2016/0905	検事総長	札幌高検検事長	法務事務次官	法務省刑事局長	
28 西川 克行	1954	男	京大	1976	1977	2016/0905	2017/0907	依願退官	名古屋高検検事長	広島高検検事長	大阪地検検事正	
29 稲田 伸夫	1956	男	東大	1978	1979	2017/0907	2018/0725	検事総長	仙台高検検事長	法務事務次官	法務省刑事局長	
30 八木 宏幸	1956	男	中六	1978	1979	2018/0725	2019/0118	依願退官	次長検事	東京地検検事正	最高検刑事部長	東京
31 黒川 弘務	1957	男	東大	1980	1981	2019/0118	2020/0522	依願退官	次長検事	法務大臣官房長	最高検刑事部長	
32 林 眞孝	1957	男	東大	1980	1981	2020/0526	2020/0717	検事総長	名古屋高検検事長	法務省刑事局長	最高検検事	
33 甲斐 徹	1958	男	東大	1981	1982	2020/0717	2021/0716	最高裁判事#	次長検事	仙台高検検事長	東京地検検事正	東京
34 冨合 行夫	1959	男	東大	1981	1982	2021/0716	2022/0624	検事総長	福岡高検検事長	高松高検検事長	東京地検検事正	
35 落合 義和	1960	男	東大	1983	1984	2022/0624	2023/0106	定年退官	次長検事	最高検刑事部長	さいたま地検検事正	
36 畠本 直美	1962	女	中六	1985	1985	2023/0110	○		広島高検検事長	最高検公判部長	最高検総務部長	

▼司法修習 \*19470930卒 \*\*大学院1学年修了の期で逆転 #「官報」に記載がなく、新聞では「辞職」と報じられる。

基礎資料 4 歴代大阪高検検事長

氏名	生年	性別	出身大学	司法試験合格年	大学卒業年	就任	退任	後職1	後職2	前職1	前職2	前職3
1 田村 秀策	1923	男	早大	1947	1948	1983.11.14	1985.08.09	依願退官		福岡高検検事長	高松高検検事長	最高検刑事部長
2 石原 一彦	1926	男	東大	1947	1948	1985.08.09	1987.05.18	依願退官		福岡高検検事長	高松高検検事長	最高検公安部長
3 臼井 滋夫	1926	男	東大	1947	1948	1987.05.18	1988.12.19	依願退官		名古屋高検検事長	福岡高検検事長	高松高検検事長
4 木村 架作	1926	男	京大	1949	1950	1988.12.19	1989.09.03	定年退官		高松高検検事長	東京地検検事正	最高検刑事部長
5 川島 興	1928	男	中大	1950	1951	1989.09.04	1991.12.12	依願退官		高松高検検事長	東京地検検事正	検事総長
6 吉永 祐介	1932	男	岡山大	1952	1953	1991.12.12	1993.07.02	東京高検検事長	検事総長	広島高検検事長	東京地検検事正	最高検公判部長
7 土肥 孝治	1933	男	京大	1955	1956	1993.07.02	1995.07.31	東京高検検事長		次長検事	大阪地検検事正	神戸地検検事正
8 増井 清彦	1933	男	京大	1955	1956	1995.07.31	1996.05.21	依願退官		仙台高検検事長	東京地検検事正	最高検刑事部長
9 荒川 洋二	1935	男	京大	1956	1957	1996.06.03	1997.12.15	依願退官		高松高検検事長	大阪地検検事正	神戸地検検事正
10 蓮坂 貞夫	1936	男	阪大	1958	1959	1997.12.15	1999.06.07	定年退官		高松高検検事長	大阪地検検事正	最高検公判部長
11 杉原 弘泰	1938	男	金沢大	1960	1961	1999.06.08	2001.05.17	定年退官		広島高検検事長	高松高検検事長	公安調査庁長官
12 黄條伸一郎	1939	男	東大	1962	1963	2001.05.18	2002.06.16	定年退官		名古屋高検検事長	札幌高検検事長	最高検刑事部長
13 河内 悠紀	1940	男	京大	1963	1964	2002.06.17	2003.02.13	定年退官		名古屋高検検事長	仙台高検検事長	法総研所長
14 須安 健司	1942	男	東大	1964	1965	2003.02.14	2004.06.25	依願退官		福岡高検検事長	札幌高検検事長	公安調査庁長官
15 齋上由紀夫	1944	男	東大	1965	1966	2004.06.25	2005.08.25	依願退官		福岡高検検事長	札幌高検検事長	公安調査庁長官
16 齊田國太郎	1943	男	早大	1966	1966	2005.08.25	2006.05.03	定年退官		広島高検検事長	高松高検検事長	東京地検検事正
17 佐々木茂夫	1944	男	京大	1966	1967	2006.05.08	2007.07.10	依願退官		福岡高検検事長	札幌高検検事長	大阪地検検事正
18 大泉 隆史	1946	男	東大	1968	1969*	2007.07.10	2009.01.16	依願退官		仙台高検検事長	公安調査庁長官	最高検公安部長
19 中尾 巧	1947	男	関西大	1969	1970	2009.01.16	2010.06.17	依願退官		名古屋高検検事長	札幌高検検事長	最高検公判部長
20 柳 俊夫	1949	男	一橋大	1971	1972	2010.06.17	2012.01.17	依願退官		高松高検検事長	公安調査庁長官	さいたま地検検事正
21 北田 幹直	1952	男	京大	1973	1974	2011.11.07	2004.01.09	依願退官		札幌高検検事長	公安調査庁長官	千葉地検検事正
22 池上 政幸	1951	男	東北大	1974	1975	2004.01.09	2014.07.18	最高裁判事#		名古屋高検検事長	次長検事	最高検刑事部長
23 尾崎 道明	1952	男	東大	1975	1976	2014.07.18	2015.12.04	定年退官		高松高検検事長	公安調査庁長官	法務省矯正局長
24 伊丹 俊彦	1953	男	早大	1977	1976	2015.12.04	2016.09.01	定年退官		次長検事	東京地検検事正	名古屋地検検事正
25 寺脇 一峰	1954	男	京大	1977	1978	2016.09.05	2017.04.12	定年退官		仙台高検検事長	公安調査庁長官	最高検監獄指導部長
26 三浦 守	1956	男	東大	1979	1980	2017.04.17	2018.02.26	最高裁判事		札幌高検検事長	最高検公判部長	最高検監獄指導部長
27 上野 友恭	1957	男	九大	1980	1981	2018.02.26	2018.02.26	依願退官		札幌高検検事長	大阪地検検事正	最高検公判部長
28 榊原 一夫	1958	男	東大	1981	1982	2020.01.09	2021.07.16	依願退官		福岡高検検事長	大阪地検検事正	最高検公判部長
29 曾木 徹也	1960	男	早大	1983	1984	2021.07.16	2023.01.04	定年退官		高松高検検事長	東京地検検事正	最高検公安部長
30 小山 太士	1961	男	東大	1985	1986	2023.01.10	○			札幌高検検事長	横浜地検検事正	最高検監獄指導部長

\*東大中退・7月司法研修所入所

#大阪高検検事長退官後に就任

長年勤務検閲官名代古岡高橋

氏名	生年	性別	出身大学	司法試験合格年	大学卒業年	就任	退任	後職1	後職2	前職1	前職2	前職3
1 青山 春樹		男	東大	1947	1942	19820213	19831202	依願退官		福岡高検検事長	最高検公安部長	静岡地検検事正
2 鎌田 好夫	1923	男	東大	1947	1946	19831202	19860602	定年退官		公安調査庁長官	京都地検検事正	公安調査庁次長
3 臼井 滋夫	1926	男	東大	1947	1948	19860603	19870518	大阪高検検事長		福岡高検検事長	高松高検検事長	最高検公判部長
4 豊島英次郎	1925	男	京大	1948	1949	19870518	19880704	依願退官		広島高検検事長	仙台高検検事長	最高検刑事部長
5 谷川 輝	1922	男	東大	1949	1950	19880704	19890612	定年退官		公安調査庁長官	名古屋地検検事正	法務省保護局長
6 井上 五郎	1928	男	東大	1950	1951	19890614	19911212	依願退官		法総研所長	最高検総務部長	名古屋地検検事正
7 水原 敏博	1930	男	中大	1952	1953	19911212	19920717	依願退官		仙台高検検事長	横浜地検検事正	水戸地検検事正
8 谷山 純一		男	高知大	1953	1953	19920717	19930630	依願退官		福岡高検検事長	札幌高検検事長	大阪地検検事正
9 敷田 稔	1932	男	九大	1953	1954	19930702	19950212	定年退官		広島高検検事長	法総研所長	京都地検検事正
10 村田 恒	1933	男	京大	1955	1956	19950213	19960602	定年退官		高松高検検事長	高松高検検事正	千葉地検検事正
11 亀山 継夫	1934	男	東大	1955	1955	19960603	19970225	最高裁判事#		広島高検検事長	法総研所長	最高検総務部長
12 日野 正晴	1936	男	東北大	1958	1959	19970226	19980619	依願退官		仙台高検検事長	法総研所長	最高検公安部長
13 村山 弘義	1937	男	新潟大	1959	1959	19980623	19990426	依願退官		札幌高検検事長	最高検公安部長	最高検公判部長
14 吉村 徳則	1937	男	京大	1961	1961	19990426	20001124	定年退官		福岡高検検事長	法総研所長	福岡地検検事正
15 石川 達敏	1939	男	中大	1962	1962	20001127	20011115	依願退官		福岡高検検事長	東京地検検事正	最高検公判部長
16 河内 悠紀	1940	男	京大	1963	1964	20011115	20020617	大阪高検検事長		仙台高検検事長	法総研所長	京都地検検事正
17 須安 健司	1942	男	東大	1964	1965	20020617	20030214	大阪高検検事長		札幌高検検事長	法総研所長	最高検刑事部長
18 宗象 紀夫	1942	男	中大	1965	1965	20030214	20040116	依願退官		高松高検検事長	最高検刑事部長	最高検総務部長
19 高野 利雄	1943	男	中大	1965	1966	20040116	20050322	依願退官		仙台高検検事長	東京地検検事正	最高検公判部長
20 鶴田 六郎	1943	男	東大	1967	1968	20050401	20060615	定年退官		東京地検検事長	法総研所長	最高検公安部長
21 櫻井 正史	1944	男	早大	1968	1968	20060630	20070710	依願退官		東京地検検事正	最高検刑事部長	東京高検次席検事
22 中尾 巧	1947	男	関西大	1969	1970	20070710	20090116	大阪高検検事長		最高検刑事部長	大阪地検検事正	最高検次席検事
23 松永 榮治	1947	男	九大	1969	1970	20090116	20100530	定年退官		広島高検検事長	法総研所長	横浜地検検事正
24 小貫 芳信	1948	男	中大院	1971	1973	20100531	20101227	東京高検検事長		法総研所長	最高検公安部長	最高検検事
25 藤田 昇三	1948	男	東大	1973	1973	20101227	20110731	定年退官		広島高検検事長	最高検検事	最高検公安部長
26 岩村 修二	1949	男	中大	1973	1973	20110811	20120720	辞職		仙台高検検事長	東京地検検事正	最高検刑事部長
27 池上 政幸	1951	男	東北大	1974	1975	20120720	20140109	大阪高検検事長		次長検事	最高検刑事部長	最高検公判部長
28 河村 博	1952	男	京大	1974	1975	20140109	20150115	定年退官		札幌高検検事長	最高検刑事部長	最高検公判部長
29 田内 正宏	1954	男	京大	1976	1977	20150123	20160905	東京高検検事長		広島高検検事長	大阪地検検事正	最高検公安部長
30 青沼 隆之	1955	男	中大	1978	1978	20160905	20180109	依願退官		次長検事	東京地検検事正	東京高検次席検事
31 林 眞琴	1957	男	東大	1980	1981	20180109	20200526	東京高検検事長		法務省刑事局長	仙台地検検事正	最高検総務部長
32 中川 清明	1958	男	東大	1981	1982	20200529	20210903	依願退官		公安調査庁長官	最高検公安部長	静岡地検検事正
33 大塚亮太郎	1960	男	早大	1983	1984	20210903	20230110	依願退官		仙台高検検事長	法総研所長	最高検公判部長
34 高嶋 智光	1961	男	東大	1986	1986	20230110	○			法務事務次官	出入留管理官兼法務次官	法務省入職課副課長

#名古屋高検検事長退官後仁就任 #前次上退官後仁就任



東京高等検察庁時代の6名検察官

氏名	生年	性別	出身大学	司法試験合格年	大学卒業年	就任	退任	後職1	後職2	後職3	前職1	前職2	前職3
1 吉良 慎平	1920	男	東大	1947	1943	19810323	19830228	定年退官			法総研所長	最高検総務部長	長野地検検事正
2 小嵐 信勝	1921	男	關大專	1947	1942	19830302	19841120	依願退官			仙台高検検事長	最高検刑事部長	神戸地検検事正
3 田村彌太郎	1923	男	京大	1947	1948	19841120	19860405	定年退官			仙台高検検事長	大阪地検検事正	大阪高検検事
4 豊島英次郎	1925	男	京大	1948	1949	19860407	19870518	名古屋高検検事長			仙台高検検事長	最高検刑事部長	法務省矯正局長
5 竹村 照雄	1926	男	東大	1948	1949	19870518	19890408	定年退官			高松高検検事長	法総研所長	横浜地検検事正
6 村上 尚文	1928	男	東大	1951	1952	19890410	19910316	依願退官			大阪地検検事正	名古屋地検検事正	最高検検事
7 吉永 祐介	1932	男	岡山大	1952	1953	19910328	19911212	大阪高検検事長	東京高検検事長		東京地検検事正	最高検判判部長	宇都宮地検検事正
8 栗田 稔	1932	男	九大	1953	1954	19911212	19930702	名古屋高検検事長		検事総長	法総研所長	京都地検検事正	最高検検事
9 栗田 啓二	1932	男	東大	1954	1955	19930702	19941111	福岡高検検事長			公安調査庁長官	京都地検検事正	法務省保護局長
10 龜山 繼夫	1934	男	東大	1955	1955	19941111	19960603	名古屋高検検事長			法総研所長	最高検総務部長	前橋地検検事正
11 緒方 重威	1934	男	早大	1957	1958	19960603	19970603	定年退官			仙台高検検事長	公安調査庁長官	最高検公安部長
12 中嶋 肇	1936	男	中大	1958	1959	19970604	19990118	依願退官			札幌高検検事長	京都地検検事正	最高検検事
13 杉原 弘泰	1938	男	金沢大	1960	1961	19990118	19990608	大阪高検検事長			高松高検検事長	公安調査庁長官	福岡地検検事正
14 東條伸一郎	1939	男	東大	1962	1963	19990608	20010518	大阪高検検事長			札幌高検検事長	最高検刑事部長	法務省矯正局長
15 木藤 繁夫	1940	男	東大	1962	1964	20010522	20021007	東京高検検事長			公安調査庁長官	最高検公安部長	最高検総務部長
16 坂井 一郎	1942	男	京大	1965	1966	20021007	20040625	福岡高検検事長			法総研所長	横浜地検検事正	法務省矯正局長
17 齊田國太郎	1943	男	早大	1966	1966	20040625	20050825	大阪高検検事長			高松高検検事長	東京地検検事正	東京高検検事
18 横田 尤孝	1944	男	中大	1966	1969	20050825	20060630	次長検事	最高裁判事#		法務事務次官	法務省刑事局長	最高検総務部長
19 榎渡 利秋	1945	男	東大	1967	1968	20060630	20061218	東京高検検事長	検事総長		法務省矯正局長	法務省保護局長	最高検検事部長
20 鈴木 芳夫	1945	男	中大	1967	1968	20061218	20080117	依願退官			仙台高検検事長	高松高検検事長	横浜地検検事正
21 松永 梁治	1947	男	九大	1969	1970	20080117	20090116	東京高検検事長	検事総長		法総研所長	最高検刑事部長	東京高検検事正
22 空間 治雄	1948	男	中大	1971	1970	20090116	20100617	東京高検検事長			次長検事	最高検公安部長	東京高検検事
23 藤田 昇三	1948	男	東大	1973	1973	20100617	20101227	名古屋高検検事長			最高検検事	最高検公安部長	法務省保護局長
24 榎木 善	1948	男	東大	1974	1974	20101227	20110811	依願退官			高松高検検事長	最高検検事正	法務省矯正局長
25 勝丸 充啓	1951	男	一橋大	1975	1976	20120626	20140718	依願退官			東京地検検事長	最高検検事正	東京高検検事
26 田内 正宏	1954	男	京大	1976	1977	20140718	20150123	東京高検検事長			大阪高検検事長	最高検公安部長	さいたま地検検事正
27 長谷川充弘	1953	男	東大	1979	1980	20150123	20160905	辞職			名古屋地検検事正	最高検判判部長	法務省入国管理局長
28 酒井 邦彦	1954	男	東大	1976	1977	20160905	20170303	定年退官			高松高検検事長	法総研所長	最高検検事
29 齋藤 雄彦	1955	男	阪大	1980	1978	20170314	20180109	依願退官			高松高検検事長	最高検公安部長	最高検監察指導部長
30 稲川 龍也	1956	男	早大	1980	1980	20180109	20190902	依願退官			高松高検検事長	最高検公安部長	最高検監察指導部長
31 小川 新一	1957	男	早大	1981	1982	20190902	20200326	定年退官			横浜地検検事正	最高検公安部長	最高検監察指導部長
32 中原 亮一	1959	男	慶大	1982	1982	20200330	20210716	福岡高検検事長			横浜地検検事正	最高検公安部長	最高検監察指導部長
33 畠本 直美	1962	女	中大	1985	1985	20200716	20230110	東京高検検事長			最高検判判部長	最高検判判部長	最高検監察指導部長
34 畠本 直美	1962	女	中大	1985	1985	20200716	20230110	東京高検検事長			公安調査庁長官	最高検判判部長	最高検監察指導部長
35 和田 雅樹	1961	男	東大	1984	1985	20230110	○				公安調査庁長官	最高検判判部長	法務省入国管理局長

#前ボエト退官後に就任

長事務検査高等検査官時代の7年間の経歴

氏名	生年	性別	出身大学	司法試験合格年	大学卒業年	就任	退任	後職1	後職2	前職1	前職2	前職3
1 青山 春樹	1923	男	東大	1947	1942	19800514	19820213	名古屋高検検事長		最高検公安部長	静岡地検検事正	最高検検事
2 田村 彦策	1926	男	早大	1947	1948	19820113	19831114	大阪高検検事長		最高検検事長	最高検刑事部長	最高検総務部長
3 石原 一彦	1926	男	東大	1947	1948	19831114	19850809	大阪高検検事長		最高検検事長	最高検公安部長	最高検総務部長
4 臼井 滋夫	1926	男	東大	1947	1948	19850809	19860603	名古屋高検検事長		最高検検事長	最高検検事正	千葉地検検事正
5 稲田 克巳	1924	男	京大	1948	1947	19860603	19870513	定年退官		高松高検検事長	大阪地検検事正	最高検公安部長
6 近松 昌三		男	東大	1949	1949	19870518	19880704	依願退官		最高検公安部長	横浜地検検事正	最高検総務部長
7 村上 流光	1926	男	慶大	1948	1949	19880704	19890824	定年退官		仙台高検検事長	大阪地検検事正	最高検公安部長
8 石山 陽		男	東大	1952	1950	19890904	19901210	依願退官		公安調査庁長官	最高検公安部長	法務省矯正局長
9 細谷 明	1928	男	近大	1951	1952*	19901210	19911212	依願退官		札幌高検検事長	最高検公安部長	大阪地検検事正
10 谷山 純一		男	高知大	1953	1953	19911212	19920717	名古屋高検検事長		札幌高検検事長	大阪地検検事正	大阪高検検事
11 當別 當季正	1931	男	阪大	1954	1954	19920717	19941107	定年退官		高松高検検事長	浦和地検検事正	最高検検事
12 栗田 啓二	1932	男	東大	1954	1955	19941111	19950928	定年退官		広島高検検事長	公安調査庁長官	京都地検検事正
13 飛田 清弘	1936	男	東大	1958	1959	19950929	19970226	依願退官		東京地検検事正	横浜地検検事正	法務省矯正局長
14 高橋 武生	1935	男	早大	1960	1959	19970226	19980717	依願退官		東京地検検事正	横浜地検検事正	東京高検検事
15 吉村 徳則	1937	男	京大	1961	1961	19980717	19990426	名古屋高検検事長		法務研究所長	福岡地検検事正	名古屋高検検事
16 石川 達敏	1939	男	中大	1962	1962	19990426	20001127	名古屋高検検事長		東京地検検事正	最高検判事	最高検検事
17 豊嶋 秀直	1939	男	中大	1962	1961	20001227	20010522	依願退官		高松高検検事長	公安調査庁長官	大阪地検検事正
18 飯田 英男	1938	男	中大	1963	1962	20010522	20011114	定年退官		札幌高検検事長	大阪地検検事正	神戸地検検事正
19 加納 駿亮	1942	男	早大	1964	1965	20011115	20040116	依願退官		札幌高検検事長	神戸地検検事正	大阪高検検事
20 書上 紀夫	1944	男	東大	1965	1966	20040116	20040625	大阪高検検事長		札幌高検検事長	法務研究所長	最高検公安部長
21 坂井 一郎	1942	男	京大	1965	1966	20050331	20060508	依願退官		札幌高検検事長	法務研究所長	最高検検事正
22 佐々木 茂夫	1944	男	京大	1966	1967	20050401	20060508	大阪高検検事長		札幌高検検事長	大阪地検検事正	最高検総務部長
23 佐藤 賢一	1946	男	早大	1968	1969	20060508	20070710	依願退官		札幌高検検事長	最高検刑事部長	京都地検検事正
24 橋本 庄太郎	1946	男	早大	1970	1970	20070710	20090116	依願退官		東京地検検事正	最高検刑事部長	東京高検検事
25 有田 知徳	1948	男	中大	1971	1970	20090116	20100106	依願退官		仙台高検検事長	高松高検検事長	最高検公安部長
26 三浦 正晴	1948	男	東大	1972	1973	20100106	20101022	依願退官		大阪地検検事正	大阪高検検事	最高検検事
27 麻生 光洋	1949	男	東大	1972	1973	20101026	20120625	定年退官		法務研究所長	名古屋地検検事正	福岡地検検事正
28 鈴木 和宏	1951	男	一橋大	1973	1974	20120326	20140109	依願退官		広島高検検事長	東京地検検事正	最高検刑事部長
29 北村 道夫	1952	男	早大	1974	1975	20140109	20150123	依願退官		仙台高検検事長	大阪地検検事正	名古屋地検検事正
30 松井 藤	1953	男	東北大	1977	1978	20150123	20160905	依願退官		横浜地検検事正	最高検刑事部長	大阪高検検事
31 野々上 尚	1955	男	東大	1979	1979	20160906	20180226	依願退官		公安調査庁長官	最高検監獄指導部長	大阪高検検事
32 井原 一夫	1958	男	東大	1981	1982	20180226	20200109	定年退官		大阪地検検事正	最高検検事正	最高検検事
33 井上 宏	1957	男	東大	1982	1983	20200109	20200616	依願退官		札幌高検検事長	名古屋地検検事正	最高検監獄指導部長
34 甲斐 行夫	1959	男	東大	1981	1982	20200619	20210716	東京高検検事長	検事総長	高松高検検事長	最高検検事長	最高検検事
35 中原 亮一	1959	男	慶大	1982	1982	20210716	20220624	依願退官		広島高検検事長	横浜地検検事正	最高検公安部長
36 田辺 泰弘	1960	男	中大	1984	1984	20220624	20230711	依願退官		札幌高検検事長	大阪地検検事正	大阪高検検事
37 久木元 伸	1961	男	東大	1986	1986	20230711	○			東京地検検事正	東京高検検事	東京地検検事

\*中退

裁判官の職歴 8 裁判官の職歴

氏名	生年	性別	出身大学	司法試験合格年	大学卒業年	就任	退任	後職1	後職2	後職3	前職1	前職2	前職3
1 小島 信勝	1921	男	関大専	1947	1942	19811102	19830302	広島高検検事長			最高検刑事部長	神戸地検検事正	水戸地検検事正
2 田村彌太郎	1923	男	京大	1947	1948	19830302	19841120	広島高検検事長			大阪地検検事正	大阪文席検事	最高検検事
3 豊島英次郎	1925	男	京大	1948	1949	19841120	19860407	広島高検検事長	名古屋高検検事長		最高検刑事部長	法務省矯正局長	前橋地検検事正
4 平田 胤明	1925	男	京大	1948	1949	19860407	19871202	依願退官			最高検公安部長	最高検総務部長(特)	最高検検事
5 村上 利幸	1926	男	慶大	1948	1949	19871202	19880704	福岡高検検事長			最高検公安部長	最高検公安部長	神戸地検検事正
6 横谷 光雄	1926	男	慶大	1951	1952	19880704	19890901	定年退官			最高検公安部長	法務省保護局長	最高検検事
7 水原 敏博	1930	男	中大	1952	1953	19890904	19911212	名古屋高検検事長			大阪地検検事正	水戸地検検事正	最高検検事
8 米田 昭	1930	男	東大	1952	1953	19911212	19930624	定年退官			公安調査庁長官	最高検総務部長	岡山地検検事正
9 増井 清彦	1933	男	京大	1955	1956	19930702	19950731	大阪高検検事長			東京地検検事正	最高検刑事部長	東京高検次席検事
10 緒方 重威	1934	男	早大	1957	1958	19950731	19960603	広島高検検事長			公安調査庁長官	最高検公安部長	長野地検検事正
11 日野 正晴	1936	男	東北大	1958	1959	19960603	19971026	名古屋高検検事長			法総研所長	最高検公安部長	最高検検事
12 神出 兼嘉	1935	男	京大	1961	1962	19970226	19980211	定年退官			大阪地検検事正	最高検判事部長	大阪高検次席検事
13 河内 悠紀	1940	男	中大	1962	1962	19980212	19991222	次長検事	東京高検検事長		横浜地検検事正	東京高検次席検事	公安調査庁次長
14 松浦 恂	1940	男	京大	1963	1964	19991222	20011115	名古屋高検検事長	大阪高検検事長		法総研所長	京都地検検事正	公安調査庁次長
15 高野 利雄	1943	男	中大	1965	1966	20011115	20040116	名古屋高検検事長			東京地検検事正	最高検検事	甲府地検検事正
16 町田 幸雄	1942	男	東大	1966	1967	20040116	20041210	次長検事			公安調査庁長官	最高検刑事部長	最高検総務部長
17 上田 廣一	1943	男	明大	1966	1966	20041210	20050704	次長検事	東京高検検事長		高松高検検事長	東京地検検事正	法総研所長
18 鈴木 芳夫	1945	男	中大	1967	1968	20050704	20061218	広島高検検事長			高松高検検事長	横浜地検検事正	最高検総務部長
19 大泉 隆史	1946	男	東大	1968	1969*	20061218	20070710	大阪高検検事長			公安調査庁長官	最高検公安部長	最高検総務部長
20 大塚 清明	1945	男	東大	1968	1969*	20070710	20080627	定年退官			高松高検検事長	法総研所長	名古屋地検検事正
21 有田 知徳	1948	男	中大	1971	1970	20080701	20090116	福岡高検検事長			高松高検検事長	最高検公安部長	名古屋地検検事正
22 増田 暢也	1947	男	中大	1971	1971	20090116	20100617	依願退官			横浜地検検事正	千葉地検検事正	大阪高検次席検事
23 岩村 修二	1949	男	中大	1973	1973	20100617	20110811	名古屋高検検事長			東京地検検事正	最高検刑事部長	東京地検検事正
24 大野恒太郎	1952	男	東大	1973	1974	20110811	20121070	東京高検検事長	検事総長		法務事務次官	法務省刑事部長	最高検総務部長
25 北村 道夫	1952	男	早大	1974	1975	20120720	20140109	福岡高検検事長			大阪地検検事正	名古屋地検検事正	静岡地検検事正
26 清水 治		男	京大	1975	1976	20140109	20150123	依願退官			高松高検検事長	法総研所長	福岡地検検事正
27 寺嶋 一峰	1954	男	京大	1977	1978	20150123	20160905	大阪高検検事長			公安調査庁長官	名古屋地検検事正	最高検検事
28 福田 伸夫	1956	男	東大	1978	1979	20160905	20170907	東京高検検事長	検事総長		法務事務次官	法務省刑事部長	最高検検事
29 堺 徹	1958	男	東大	1981	1982	20170907	20180725	次長検事	東京高検検事長	最高裁判事	東京地検検事正	東京高検次席検事	東京地検検事
30 大谷 翼大	1957	男	東大	1981	1982	20180725	20200330	依願退官			横浜地検検事正	京都地検検事正	最高検検事
31 大塚亮太郎	1960	男	早大	1983	1984	20200330	20210903	名古屋高検検事長			法総研所長	最高検判事部長	最高検総務部長
32 辻 裕教	1961	男	東大	1983	1984	20210903	20230711	依願退官			法務事務次官	法務省刑事部長	法務省大臣官房長
33 上置 敏伸	1962	男	中大	1985	1985	20230711	○				法総研所長	さいたま地検検事正	最高検検事

\*東大中退・7月司法研修所入所

歴代札幌高検検事長 〇 基礎資料

氏名	生年	性別	出身大学	司法試験合格年	大学卒業年	就任	退任	後職1	後職2	前職1	前職2	前職3
1 常井 善	1922	男	東大	1947	1948	1983.12.20	1985.1.10	定年退官		法総研所長	京都地検検事正	福岡地検検事正
2 中川 一		男	中大	1947	1947	1985.1.10	1987.12.20	依願退官		京都地検検事正	名古屋高検検事長	水戸地検検事正
3 鈴木 義男		男	東大	1947	1948	1987.12.20	1989.04.10	依願退官		京都地検検事正	最高裁判部部長	法務省矯正局長
4 細谷 明	1928	男	近大	1951	1952*	1989.04.10	1990.12.10	福岡高検検事長		最高検公安部長	広島地検検事正	大阪高検検事正
5 谷山 純一		男	高知大	1953	1953	1990.12.10	1991.12.12	福岡高検検事長		大阪地検検事正	大阪高検検事正	徳島地検検事正
6 佐藤 道夫	1932	男	東北大	1954	1955	1991.12.12	1995.06.21	依願退官		最高検刑事部部長	最高検公判部部長	公安調査庁次長
7 山口 悠介	1934	男	東大	1958	1959	1995.07.31	1996.01.05	依願退官		最高検刑事部部長	最高検総務部部長	最高検検事
8 中野 肇	1936	男	中大	1958	1959	1996.01.16	1997.06.04	広島高検検事長		京都地検検事正	最高検検事	松山地検検事正
9 村山 弘義	1937	男	新潟大	1959	1959	1997.06.04	1998.06.23	名古屋高検検事長		最高検公安部長	最高検公判部部長	最高検検事
10 東條伸一郎	1939	男	東大	1962	1963	1998.06.23	1999.06.08	広島高検検事長		最高検刑事部部長	法務省矯正局長	最高検検事
11 飯田 英男	1938	男	中大	1963	1962	1999.06.11	2001.05.22	福岡高検検事長		大阪地検検事正	神戸地検検事正	大阪高検検事
12 頃安 健司	1942	男	東大	1964	1965	2001.05.22	2002.06.17	名古屋高検検事長		法総研所長	最高検刑事部部長	最高検総務部部長
13 書上由紀夫	1944	男	東大	1965	1966	2002.06.17	2004.01.16	福岡高検検事長		公安調査庁長官	最高検公安部長	最高検検事
14 佐々木茂夫	1944	男	京大	1966	1967	2004.01.16	2005.04.01	福岡高検検事長		大阪地検検事正	最高検総務部部長	最高検公判部部長
15 佐渡 賢一	1946	男	早大	1968	1969	2005.04.01	2006.05.08	福岡高検検事長		大阪地検検事正	大阪高検検事正	東京地検検事
16 中尾 巧	1947	男	関西大	1969	1970	2006.05.08	2007.07.10	名古屋高検検事長		大阪地検検事正	大阪高検検事正	法務省入国管理局長
17 大林 宏	1947	男	一橋大	1969	1970	2007.07.10	2008.07.01	東京高検検事長		法務事務次官	法務省刑事局長	法務省大臣官房長
18 渡辺 一弘	1947	男	京大	1971	1971	2008.07.01	2009.07.14	依願退官		横浜地検検事正	名古屋地検検事正	法務省大臣官房長
19 小津 博司	1949	男	東大	1971	1972	2009.07.14	2010.12.27	東京高検検事長		法務事務次官	法務省刑事局長	法務省大臣官房長
20 北田 幹直	1952	男	京大	1973	1974	2010.12.27	2012.01.17	大阪高検検事長		公安調査庁長官	法務省刑事局長	最高検公判部部長
21 河村 博	1952	男	京大	1974	1975	2012.01.17	2014.01.09	名古屋高検検事長		横浜地検検事正	千葉地検検事正	最高検検事
22 西川 克行	1954	男	東大	1976	1977	2014.01.09	2015.12.10	東京高検検事長		法務事務次官	法務省刑事局長	法務省矯正局長
23 三浦 守	1956	男	東大	1979	1980	2015.12.10	2017.04.17	大阪高検検事長	検事総長	最高検公判部部長	最高検監察指導部部長	大阪地検検事
24 上野 友慈	1957	男	九大	1980	1981	2017.04.17	2018.02.26	大阪高検検事長		大阪地検検事正	最高検公安部長	大阪地検検事
25 井上 宏	1957	男	東大	1982	1983	2018.02.26	2020.01.09	福岡高検検事長		名古屋地検検事正	最高検監察指導部部長	最高検検事
26 片岡 弘	1958	男	東大	1982	1983	2020.01.09	2021.04.07	定年退官		名古屋地検検事正	最高検総務部部長	最高検検事
27 田辺 泰弘	1960	男	中大	1984	1984	2020.04.08	2022.06.24	福岡高検検事長		大阪地検検事正	大阪高検検事	大阪地検検事
28 小山 太士	1961	男	東大	1985	1986	2022.06.24	2023.01.10	大阪高検検事長		横浜地検検事正	最高検公安部長	最高検監察指導部部長
29 神村 昌道	1961	男	東大	1986	1985	2023.01.10	○			最高検総務部部長	千葉地検検事正	静岡地検検事正

\*中退

10 検察庁検事長代高松

氏名	生年	性別	出身大学	司法試験合格年	大学卒業年	就任	退任	後職1	後職2	後職3	前職1	前職2	前職3
1 田村 秀策	1923	男	早大	1947	1948	19810109	19820213	福岡高検検事長	大阪高検検事長		最高検刑事部長	最高検総務部長	千葉地検検事正
2 石原 一彦	1926	男	東大	1947	1948	19820213	19831114	福岡高検検事長	大阪高検検事長		最高検公安部長	最高検総務部長	法務省矯正局長
3 日井 滋夫	1926	男	東大	1947	1948	19831114	19850809	福岡高検検事長	名古屋高検検事長	大阪高検検事長	最高検公安部長	最高検検事正	最高検検事
4 稲田 克己	1924	男	京大	1948	1947	19850809	19860603	福岡高検検事長			大阪地検検事正	横浜地検検事正	神戸地検検事正
5 木村 照雄	1926	男	京大	1948	1949	19860603	19870518	広島高検検事長			法総研所長	横浜地検検事正	最高検総務部長
6 竹村 傑作	1926	男	京大	1949	1950	19870518	19881219	大阪高検検事長			東京地検検事正	最高検刑事部長	最高検検事部長
7 川島 興	1928	男	中大	1950	1951	19881219	19890904	大阪高検検事長			東京地検検事正	横浜地検検事正	最高検検事部長
8 藤永 幸治	1930	男	京大	1952	1954	19890904	19911212	次長検事	東京高検検事長		最高検刑事部長	東京高検次席検事	最高検検事
9 當別警正	1931	男	阪大	1954	1954	19911212	19920717	福岡高検検事長			最高検公安部長	浦和地検検事正	最高検検事
10 井嶋 一友	1932	男	京大	1956	1957	19920729	19930702	次長検事	最高裁判事		最高検刑事部長	法務省刑事局長	法務大臣官房長
11 村田 恒	1933	男	京大	1955	1956	19930702	19950213	名古屋高検検事長			横浜地検検事正	千葉地検検事正	最高検検事
12 荒川 洋二	1935	男	京大	1956	1957	19950213	19960603	大阪高検検事長	大阪高検検事長		大阪地検検事正	神戸地検検事正	大阪地検次席検事
13 蓮坂 真夫	1936	男	阪大	1958	1959	19960603	19971215	大阪高検検事長			公安調査庁長官	最高検公判部長	法務省保護局長
14 杉原 弘泰	1938	男	金沢大	1960	1961	19971215	19990118	広島高検検事長	大阪高検検事長		公安調査庁長官	福岡地検検事正	大阪地検次席検事
15 豊嶋 秀直	1939	男	中大	1962	1961	19990118	20010702	次長検事	東京高検検事長		東京地検検事正	最高検検事部長	横浜地検検事正
16 甲斐中辰夫	1940	男	中大	1963	1962	20010127	20010702	次長検事	東京高検検事長		最高検刑事部長	最高検検事部長	横浜地検検事正
17 宗像 紀夫	1942	男	中大	1965	1965	20010702	20030214	名古屋高検検事長			最高検刑事部長	最高検総務部長	前橋地検検事正
18 齊田國太郎	1943	男	早大	1966	1966	20030214	20040625	広島高検検事長	大阪高検検事長		東京地検検事正	東京高検次席検事	奈良地検検事正
19 上田 廣一	1943	男	明大	1966	1966	20040625	20041210	仙台高検検事長	次長検事		東京地検検事正	最高検検事	甲府地検検事正
20 鈴木 芳夫	1945	男	中大	1967	1968	20041210	20050704	仙台高検検事長	広島高検検事長	東京高検検事長	横浜地検検事正	最高検総務部長	千葉地検検事正
21 大塚 清明	1945	男	東大	1968	1969*	20050704	20070710	仙台高検検事長			法総研所長	最高検検事正	最高検公判部長
22 有田 知徳	1948	男	中大	1971	1970	20070710	20080701	仙台高検検事長	福岡高検検事長		最高検公安部長	名古屋地検検事正	最高検検事
23 伊藤 鉄男	1948	男	中大	1972	1971	20080701	20090116	次長検事			公安調査庁長官	東京高検次席検事	東京地検検事
24 柳 俊夫	1949	男	一橋大	1971	1972	20090116	20100617	大阪高検検事長			公安調査庁長官	さいたま地検検事正	公安調査庁次長
25 榎木 壽	1948	男	東大	1974	1972	20100617	20101227	広島高検検事長	広島高検検事長		最高検公安部長	法務省矯正局長	最高検検事
26 勝丸 充啓	1951	男	東大	1975	1976	20101227	20120626	広島高検検事長	広島高検検事長		最高検公安部長	さいたま地検検事正	水戸地検検事正
27 清水 治		男	京大	1975	1976	20120626	20140109	広島高検検事長	仙台高検検事長		法総研所長	福岡地検検事正	大阪地検検事正
28 尾崎 道明	1952	男	東大	1975	1976	20140109	20140718	大阪高検検事長			公安調査庁長官	福岡地検検事正	最高検検事
29 酒井 邦彦	1954	男	東大	1976	1977	20140718	20160905	広島高検検事長			法総研所長	名古屋地検検事正	最高検検事
30 齋藤 雄彦	1955	男	阪大	1980	1978	20160905	20170314	広島高検検事長			横浜地検検事正	京都地検総務部長	法務省保護局長
31 稲川 龍也	1956	男	早大	1980	1980	20170314	20180109	広島高検検事長			最高検公安部長	最高検検事部長	東京地検次席検事
32 小川 新二	1957	男	早大	1981	1982	20180109	20190902	広島高検検事長	福岡高検検事長		最高検公安部長	最高検検事部長	最高検検事部長
33 甲斐 行夫	1959	男	東大	1981	1982	20190902	20200619	福岡高検検事長	東京高検検事長	検事総長	東京地検検事正	最高検公安部長	東京高検次席検事
34 曾木 徹也	1960	男	早大	1983	1984	20200619	20210716	大阪高検検事長			東京地検検事正	最高検公安部長	東京高検次席検事
35 山上 秀明	1960	男	中大	1984	1983	20210716	20220624	次長検事			大阪地検検事正	最高検次席検事	大阪地検次席検事
36 敢本 綾	1960	男	中大	1986	1983	20220624	20230711	依願退官			大阪地検検事正	最高検次席検事	大阪地検次席検事
37 佐藤 隆文	1962	男	早大	1987	1985	20230711					最高検公安部長	最高検監察指導部長	宇都宮地検検事正

\*東大中退・7月司法研修所入所

11 歴代法務事務次官

氏名	生年	性別	出身大学	司法試験合格年	大学卒業年	就任	退任	後職1	後職2	後職3	前職1	前職2	前職3
1 藤島 昭	1924	男	東大	1947	1948	19810723	19831202	次長検事	最高裁判事		東京地検検事正	東京高検次席検事	最高検検事
2 前田 宏	1926	男	東大	1948	1949	19831202	19851219	東京高検検事長	検事総長		法務省刑事局長	法務大臣官房長	最高検検事
3 箕 栄一	1927	男	東大	1950	1951	19851219	19880617	東京高検検事長	検事総長		法務省刑事局長	最高検検事	法務大臣官房長
4 岡村 泰孝	1929	男	東大	1952	1953	19880617	19900613	次長検事	東京高検検事長	検事総長	法務省刑事局長	法務大臣官房長	公安調査庁次長
5 根来 泰周	1932	男	京大	1955	1956	19900613	19931222	東京高検検事長			法務省刑事局長	法務大臣官房長	法務大臣官房長人事課長
6 濱 邦久	1934	男	京大	1956	1957	19931222	19960116	東京高検検事長			法務省刑事局長	最高検検事	盛岡地検検事正
7 則定 循	1938	男	東大	1960	1961	19960116	19980623	東京高検検事長	検事総長		法務省刑事局長	法務大臣官房長	奈良地検検事正
8 原田 明夫	1939	男	東大	1962	1963	19980623	19991222	検事総長			法務省刑事局長	法務大臣官房長	最高検検事
9 松尾 邦久	1942	男	東大	1965	1966	19991222	20020118	次長検事	東京高検検事長	検事総長	法務省刑事局長	最高検検事	東京地検次席検事
10 但木 敬一	1943	男	東大	1966	1967	20020118	20040625	東京高検検事長	検事総長		法務省刑事局長	最高検検事	大分地検検事正
11 畑速 利秋	1945	男	東大	1967	1968	20040625	20060630	広島高検検事長	東京高検検事長	検事総長	法務省刑事局長	最高検総務部長	内閣官房法制部 改革推進準備室長
12 大林 宏	1947	男	一橋大	1969	1970	20060630	20070710	札幌高検検事長	東京高検検事長	検事総長	法務省刑事局長	法務省大臣官房長	法務省保護局長
13 小津 博司	1949	男	東大	1971	1972	20070710	20090714	札幌高検検事長	次長検事	東京高検検事長	法務省刑事局長	法務省大臣官房長	最高検検事
14 大野恒太郎	1952	男	東大	1973	1974	20090714	20110811	後職4：検事総長					
15 西川 克行	1954	男	東大	1976	1977	20110811	20140109	仙台高検検事長	東京高検検事長	検事総長	法務省刑事局長	最高検総務部長	最高検総務部長(心得)
16 稲田 伸夫	1956	男	東大	1978	1979	20140109	20160905	札幌高検検事長	東京高検検事長	検事総長	法務省刑事局長	法務省入国管理局長	法務省保護局長
17 黒川 弘務	1957	男	東大	1980	1981	20160905	20190118	仙台高検検事長	東京高検検事長	検事総長	法務省刑事局長	最高検検事	山形地検検事正
18 辻 裕教	1961	男	東大	1983	1984	20190118	20210903	東京高検検事長			法務省大臣官房長	法務省大臣官房長	松山地検検事正
19 髙嶋 智光	1961	男	東大	1986	1986	20210903	20230110	名古屋高検検事長○			出入国在留管理庁次長	法務省入国管理局長	法務省大臣官房審議官
20 川原 隆司	1964	男	慶大	1986	1987	20230110	○				法務省刑事局長	法務省大臣官房長	最高検検事